

六十九墓地新設ニ關スルコト
七十防疫豫防ニ關スルコト

但檢疫委員任免等ハ此限ニ在ラス

七十一復姓及改名願ニ關スルコト

七十二士族ヨリ平民籍ニ編入願ノコト

七十三死獸埋却場設置ノコト

●告示第二〇八號 明治卅一年十月二十八日

下縣郡鷄知村同大船越村へ遊廓ヲ設クルコトヲ得

但其區域ハ別ニ之ヲ定ム

●告示第二〇九號 明治卅一年十月二十八日

下縣郡鷄知村字榊田五百二十四番地及五百二十六番地乃至五百四十番地並五百七十四番地五百八十一番地總坪數貳千二百三十坪ヲ以テ鷄知村遊廓區域ト定ム
全郡大船越村字淵ノ本五百十番地乃至五百十五番地五百貳拾番地五百二十一番地字廣島六百三十番地乃至六百三十三番地合總坪數三千七十七坪ヲ以テ大船越村遊廓區域ト定ム

●告示第四一號 明治卅二年三月二十四日

西彼杵郡役所ハ本月二十六日長崎市櫻町十五番地ニ移轉ス

●乙第一四〇號 明治十三年八月四日

郡 區

町村戸長受持區域分合又ハ戸長轉任免職等ノ際事務受渡規則無之ヲハ自然諸事

錯雜執務上多少ノ障礙ヲ來サンモ難量ニ付今般別紙ノ通事務受渡規則相定候條自今都テ右ニ照準シ不都合ノ儀無之様平常注意可致旨各戸長へ可相達此旨相達候事

(別紙)

町村事務受渡規則

第一條 戸長受持區域分合又ハ戸長轉任免職等ノ節ハ奉職中取扱タル一切ノ事務左ノ箇條ニ照シ之ヲ引渡シ新舊戸長互ニ受渡ノ証書ヲ交換スヘシ

第二條 諸簿冊書類ハ行政事件ト町村公共ノ事件トヲ區別シ凡ソ左ニ記載シタル書目ニ依ヒ目錄ヲ添ヘ引渡スヘシ

第三條 租稅并地方稅等上納既濟未濟ノ區別種類ヲ明カニシ夫々仕譯書ヲ添ヘ現金ト共ニ引渡スヘシ

但シ町村協議費モ亦本文ニ準スヘシ

第四條 法律規則又ハ縣令郡區長ノ命令ニ從ヒ取掛リタル事業或ハ諸調査モノ未タ成功ニ至ラサル事件ハ當初着手ノ順序及前途ノ見込等演說書ヲ作り引渡スヘシ

但町村公共ノ事件モ亦本文ニ準スヘシ

第五條 戸長職務取扱諸費ハ出納勘定帳決算書類郡區役所へ進達濟及金額受取濟ノ有無等明細仕譯書ヲ添ヘ現金ト共ニ引渡スヘシ

第六條 戸長役所常備品及消耗品トモ目錄ヲ添ヘ現品引渡スヘシ
但町村共有ニ屬スル物件モ亦本文ニ準スヘシ

明治十八年五月乙七六
號ニテ第七條改正

第七條

事務及諸帳簿等ハ戶長解職ノ日ヨリ七日以内ニ受渡シ其簿冊目錄ハ勿論演說書及ヒ令員仕譯書等ヲ添屬シ其旨直チニ新舊戶長ヨリ郡區長ヲ經テ當廳ヘ届出ヘシ若不得止事故アリテ定期ヲ超ユルキハ當廳ノ許可ヲ請フヘシ但時宜ニ依リ新戶長着任前ナルキハ代理戶長或ハ代理筆生ヘ引渡シ追テ其代理ヨリ更ニ新戶長ヘ引渡スヘシ尤モ此場合ニ於テモ當廳ヘ届出方ハ總テ本條ニ據ルヘシ

第八條

諸簿冊書類名目概テ左ノ如シ

- 一 布告、布達留
- 一 縣廳布達并諸達留
- 一 郡區長諸達留
- 一 地租取立帳
- 一 國稅取立帳
- 一 地方稅取立帳
- 一 戶籍
- 一 徵兵諸名簿
- 一 國民軍名簿
- 一 地所建物船舶質入書入賣買與書割印帳
- 一 地券臺帳
- 一 棄兒名簿
- 一 恤窮名簿

- 一 拜借金年賦帳
- 一 孝子節婦其他人名簿
- 一 就學未就學人名簿
- 一 町村內人民印影簿
- 一 社寺明細帳扣
- 一 社寺寶物古文書調查扣
- 一 荒地一村限帳
- 一 神官住職名簿
- 一 荒地起返地價新開地年季明上申書
- 一 新開地繳下年期願書扣
- 一 耕地變換願扣
- 一 荒地新開地繼年期願書扣
- 一 畦畔加減願扣
- 一 買上拂下潰地成地價上申書扣
- 一 公立學校敷地調查扣
- 一 地租及地方稅延納ニ屬スル書類
- 一 官林帳
- 一 官有地ヶ所限帳
- 一 官舍地拜借料取立帳
- 一 部分木植挿ヶ所限帳

- 一 村字實地圖面
- 一 地所共有名簿
- 一 收穫地價毎等配付届扣
- 一 河港道路橋梁堤防ケ所付帳
- 一 右ニ係ル官費及地方稅經費金受拂帳
- 一 物產取調帳
- 一 鐵山帳
- 一 渡津ケ所付帳
- 一 里程調帳
- 一 醫師名簿
- 一 藥舖名簿
- 一 賦金取立帳
- 一 公賣處分ヲ受ケタル人名帳
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケタル人名帳
- 一 處刑人名簿
- 一 代言人名簿
- 一 諸上納金領收証書
- 一 縣廳諸伺留
- 一 郡役所諸伺留
- 一 人民諸留

一 人民諸留留

一 町村會規則

一 町村會議員名簿

一 町村會ニ屬スル諸記録

一 氏子檀家總代人名簿

一 戶長役所經費定額出納帳

第九條 前條ノ如ク書目ヲ掲クト雖モ町村ニ據リ一簿冊ヲ以テ數事ヲ兼ルモノハ名目列記シ更ニ如此部分ヲ設クルニ及ハス又前條ニ漏ルモノハ遺漏ナク引渡ヲ要ス

●乙第五一號 明治十四年六月十四日

郡役所 戶長役所

詞訟審判上必要ニ付郡區役所及戶長役所々管ノ帳簿等寫取方各裁判所ヨリ及照會候節ハ右寫本ニ正寫ノ證トシテ該所ノ印ヲ捺シ同所へ差回候様可取計此旨相達候事

但寫本多數ニテ費用相掛候節ハ其照會ヲ發シタル裁判所ヨリ仕拂ノ等ニ付明細書ヲ以テ直ニ請求候儀ト可心得且ツ詞訟事件ニ依リ元帳ヲ要スルトキハ差回方可取計候事

●乙第一一〇號 明治十四年十月十二日

郡區役所 戶長役所

各地ニ唱フル字ノ儀ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚タ多ク土地

争訟ノ審判歴史ノ考證地誌ノ編纂等ニハ最モ要用ナルモノニ付漫ニ改稱變更致サレル様心得ヘシ若實際已ヲ得サルモノアル時ハ其事由ヲ具シ出願致サスヘシ此旨相達候事

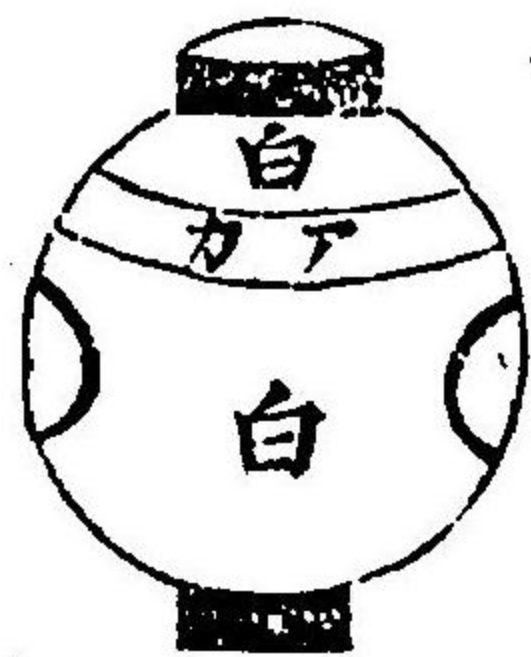
●乙第五二號

明治十六年四月十四日

郡區役所 戸長役所

本年當廳乙第五十一號達戸長公用提燈徽章其他拜賀式等左ノ通可相心得此旨相達候事

一 戸長公用提燈徽章ハ左圖ニ倣ヒ調製スヘシ尤其費用ハ各自費タルヘシ



自分效黒三處
紋ヨリ上其半ヲ赤トス

一 戸長公用印章ハ左圖ノ通該役所費ノ内ヲ以テ彫製スヘシ

但數町村ヲ受持タルモノハ何(町)(村)外何ケ(町)(村)ト彫刻スヘシ

何町戸長
何ノ誰

曲尺六分角
木製

一 三大節拜賀ハ當日午前十時大禮服用該戸長役所ニ出頭拜賀式ヲ行ヒ左ノ書式ニ準ヒ即日賀表ヲ製シ各自ヨリ直チニ當廳へ送付スヘシ

但大禮服用所持セサルモノハ當分通常禮服用スルモ妨ケナシ

謹奉賀
天長節
月日某町戸長苗字名

料紙美濃折紙堅四ツ
折新年ハ平頭紀元節
天長節
ハ檜頭ニ認ムヘシ

●乙第一三九號

明治十七年八月六日

嚴原支廳 郡區役所 戸長役所

町村ノ總稱アル者(上筑後町外八十六ヶ町總ヲ長崎ト稱シ棧原町外九ヶ町嚴原ト稱シ有田村外十六ヶ町總ヲ五島ト稱スルノ類)其町村名ノ上ニ總稱ヲ冠ス可キ處往々冠セサル者有之錯雜相生シ不都合少カラス候條自今右等ハ總テ總稱冠用セシム可シ此旨相達候事

但一定ノ書式アルモノハ本文ノ限ニアラス
●丙庶第九二八號 明治十七年九月十三日

嚴原支廳 郡役所

戸長役場所轄區域及其位置等義ハ今後容易ニ變更スヘカラサル義ニ付現時借家等ニ位置確定無之町村ハ新築若クハ買入等適宜ノ方法ニヨリ漸次置定候様計畫可致此旨内達候事

●丙庶第一〇一三號

明治十七年十月一日

十九年三月乙二八號ニ
テ但書追加本文ノ通

嚴原支廳 郡役所

數町村ヲ管轄スル戸長役所名稱ノ義是迄一定不致候處右ハ便宜ノ爲メ自今總テ役所々在ノ町村ヲ主稱シ聯合ノモノハ何町村外何ヶ町村戸長役所ト稱スヘシ之ニ矛盾スル從來ノ指令訓示ハ取消候此旨相達候事

●丙庶第一二五四號 明治十七年十一月廿四日

郡區役所

郡區長諮問會規則左ノ通相定候條此旨相達候事

郡區長諮問會規則

- 第一條 諮問會議ハ縣令ノ命ヲ以テ臨時ニ之ヲ開クモノトス
- 第二條 本會ハ郡區長ヲ以テ會員トス
- 第三條 會議ハ毎日午前九時ヨリ午後三時迄トス
但時機ニヨリ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第四條 會長ハ縣令トス尤トモ事故アレハ代理ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 議案ハ縣令之ヲ下付ス
- 第六條 會議ヲ開クトキハ會長書記ヲシテ議案ヲ朗讀セシム
- 第七條 總會員過半数出席セサレハ會議ヲ開カス
- 第八條 會員ハ議題ニ對シ審議討論スルコトヲ得
- 第九條 辨明員ハ會員ノ質問ニ對シ答辨スルモノトス
- 第十條 會議ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス
- 第十一條 可否同數ナル時ハ會長之ヲ決ス

- 第十二條 會員ノ着席番號ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第十三條 發言セント欲スル者ハ起立シテ會長ト呼ヒ其許可ヲ受クヘシ
 - 第十四條 議場ハ會長之ヲ整理スルモノトス
 - 第十五條 無用ノ發言ト認ムルモノハ會長之ヲ停止スヘシ
 - 第十六條 修正說ハ賛成者アル者ヲ以テ議題トス
但議題トナラサル論說ハ較議スルヲ得ス
 - 第十七條 議論數派ニ分レ孰レモ過半数ヲ得サルトキハ會長ノ見込ヲ以テ再議ニ付シ又ハ修正委員ヲ置キ之ヲ修正セシムルコトアルヘシ
- 丙庶第九四七號 明治十八年八月廿七日

嚴原支廳

其部内各戸長役所ノ義一村内ニ於テ其位置ヲ變更セントスルトキハ自今其廳ニ於テ便宜處分ス可シ此旨相達候事

●明治廿二年五月四日 郡長へ訓令

町村役場及町村長助役ノ公印ハ各町村區々相成サル様左ノ例ニ依リ彫刻セシメ町村長助役更迭ノ節ハ受渡ヲ爲サシメアルヘシ

方六分字体
村松村
長之印

全上
上長崎村
助役之印

全上
戸町小ヶ
倉組合
村長印

村松村
役場印

戸町小ヶ
倉組合村
役場之印

●達甲第九九號

明治廿二年五月三十日

郡役所 町村役場 元戸長役所

本年三月本縣令第十九號ヲ以テ合併セシ舊村名ハ總テ大字トシテ之ヲ存置スヘシ

但存置スル必要ナキモノハ來ル七月限り知事ニ届出シムヘシ

●明治二十二年七月十九日

郡長へ訓令

今般達甲第百三十三號ヲ以テ郡區役所規程相廢候ニ付自今縣中ノ規程ハ總テ適宜相定メ其都度届出ラルヘシ

●達甲第一四三號

明治廿二年八月十七日

郡役所 市役所

本事項ハ改廢追加數次ニ涉ルヲ以テ其合達ノ年月番號等ノ沿革ヲ略シ爰ニ現行ノモノヲ掲載ス

明治廿一年(六月)本縣達乙第百廿六號郡區長委任條件ヲ廢シ更ニ郡長市長へ別紙ノ通委任ス

但第四十一項ハ處分濟ノ時々其他ハ本縣報告例ニ依リ報告スヘシ

郡市長委任事項

四官民有地社寺境内使用ニ關スル事

六民有ノ地所建物船舶ヲ官用ノ爲メ買收シ及ビ官有ニ係ル地所建物船舶ヲ拂下

ケ若クハ無代下渡セシ時登記ヲ求ムル事但長崎市長エハ委任セス

八官有ノ借地ニアル民有ノ建物ヲ書入若クハ買買讓渡ヲナスキ其貸地タルヲ証

明スル事

十一復姓及改名願ノ事

十八士族ヨリ平民籍へ編入願ノ事

廿一氏子替届ノ事

廿三縣社以下並ニ寺院境内竹木處分ニ關スル事

廿四社寺什物取締ノ事

廿五講社並ニ教務所設置願ノ事

廿六同宗派内離末本寺替届ノ事

廿七僧侶托鉢免許人ニ關スル事

廿八說教所設置願ノ事

廿九縣社以下社殿並ニ堂宇建築修繕ノ事

三十地方稅備荒儲蓄金ニ係ル不用物品公賣ノ事

但地所建物ハ之ヲ除ク

三十一備荒儲蓄金支辨ニ係ル罹災者救助及貸與ノ事

三十二地方稅滯納者處分ノ事

三十三地方稅ニ係ル諸業者ニ鑑札ヲ下附スル事

三十四地租貸與金返納ヲ怠ル者アルトキ之ヲ出訴スル事

三十五區畫漁場及採藻場許可ノ後營業人員増減願ノ事

三十六疫獸處分ノ事

三十七諸嶺山試堀並ニ借區及ヒ廢坑願ニ對スル實地檢査ノ事

三十九難破船及ヒ漂流物ニ關スル事

四十五十石以上日本形船舶及西洋形ボート檢査ノ事

- 四十一 國縣道並樹枯損木處分ノ事
但土木管區設置ノ郡市ニシテ國縣道ニ係ル分ハ之ヲ除ク
- 四十二 國縣道路ノ破損及橋梁流失等ノ爲メ一時換路假橋又ハ渡船ヲ設置スル事
但土木管區設置ノ郡市ヲ除ク
- 四十三 國縣道路橋梁急破修繕費委任定額内ニ於テ一ヶ所金三十拾圓以内ノ工事ヲ施行スル事
但土木管區設置ノ郡市ヲ除ク
- 四十四 里道河設置更線路ヲ査定スル事
但土木管區設置ノ郡市ヲ除ク
- 四十五 水車造設願及ヒ賣買讓受讓渡願ノ事
但長崎港及佐世保軍港ニ注入スル諸川ニ係ル造設願ハ之ヲ除ク
- 四十六 國縣道路及橋梁ノ不用木石ヲ處分スル事
但土木管區ノ設置ノ郡市ヲ除ク
- 四十七 招魂社祭典及修繕掃除等ノ事
但佐古及ヒ梅香崎招魂社ハ之ヲ除ク
- 四十八 市町村立學校長事務受渡願ノ事
- 四十九 兒童就學猶豫願ノ事
- 五十 尋常小學校以下資金ノ收入支出毎三ヶ月報告ノ事
但郡市長ノ管理スル小學校ハ之ヲ除ク
- 五十一 市町村立學校ノ諸規則ヲ認可スル事

二十二年十二月達甲二
二四號全二十四年五月
達甲五九號三十二年四
月訓令三七號等ニテ更
正削除本文通リ

- 五十二 市町村立小學校休暇交換ノ事
- 五十三 賣藥受賣及行商取締鑑札ヲ下付スル事
- 五十四 醫師出張診察所開廢願ノ事
- 五十五 諸貸下金アル者他負債ノ爲メ身代限リ處分ヲ受クル節裁判所へ分配金ヲ請求スル事
但長崎市ハ之ヲ除ク
- 五十九 大藏省主管租稅外諸收入ノ測定及收納監督ノ事務
但長崎市ハ之ヲ除ク
- 六十一 貸座敷並娼妓賦金滞納者處分ノ事
- 六十二 狩獵免許ニ關スル事
- 六十五 日本形船々鑑札下付書換返納及件名書證明ニ關スル事
六十六 西洋形船測度及全鑑札下付ノ件
- 達甲第一六〇號 明治廿二年九月廿五日 郡役所 市役所
市町村ノ事務ニ關スル報告事項左ノ通相定ム
但表式アルモノ、外其時々報告スヘシ
- 報告事項
一 市參事會事務細則及市役所處務規程等ニ關スル事
一 名譽職市參事會員及市常設委員選舉ノ事
一 町村長助役收入使市町村書記以下區長及其代理者常設委員人員給料報酬額ノ事
一 町村收入使人名身元保證金額ノ事

- 一 市町村吏員報酬給料給與雜給役場需用費建築修繕費額ノ事
- 一 市町村吏員受隠料人員及金額ノ事
- 一 市町村吏員撰舉及給料給與賠償等ニ關スル裁決ノ事
- 一 市町村吏懲戒處分ノ事
- 一 市參事會員町村助役事務分掌ノ事
- 一 但市制第七十四條ニヨリ市參事會員ニ分掌セシメタルモノハ之ヲ除ク
- 一 町村組合及區設置解除ノ事
- 一 市助役及名譽職參事會員收入役旅行等ノ事
- 一 市町村長及市吏官族籍別ノ事
- 一 町村制第四條二項ノ處分及同第五條ノ裁決ニ依リ境界變更ノ事

第二表

市町村書記以下人員給額表 (明治何年一月一日現在) 廳 名

市町村名	給額		日給	計人
	何	圓全		
市彼所				
町役場				
村役場				
計				

一本表ハ毎年一月一日ノ現在ヲ以テ其月十五日以内ニ報告スヘキモノトス
 一 書記ノ名稱ヲ付セス便宜雇員トシテ書記ノ事務ニ服セシムルモノハ再掲
 トシテ(郡ハ一郡ノ總計)本表式ニ準シ表末ニ附記スヘシ

第三表

市町村區長及其代理者常設委員人員報酬表 (明治何年一月一日現在) 廳 名

市町村名	區長		區長代理者		常設委員	
	人員	報酬額	人員	報酬額	人員	報酬額
何 市						
何 町						
何 村						
計						

一本表報告期限ハ第一表ニ全シ
 一 市參事會員ニシテ常設委員ヲ兼ヌルモノアルハ之ヲ區別シ二行ニ並記
 スヘシ

第六表

市町村吏員受隠料人員金額表 (全上)

廳 名

二十三年一月達甲四號
廿四年四月達甲三四號
廿七年四月訓令五六號
ニテ改正追加本文ノ通

市町村名	市町村長		書記		収入役		書記		計	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
何市										
何村										
何町										
計										

一本表ハ毎年一月一日現在ヲ以テ其月中ニ報告スヘキモノトス
 一金額現員ニ支給スヘキ年額ヲ記入スヘシ例ヘハ町村長ニシテ退職料年額
 三拾圓ヲ受クルモノ二人アレハ人員二人金額六拾圓ト記スルカ如シ
 一市制及町村制第七十九條ニ依リ官職其他ノ職務ニ就キ給料ヲ受クル者ト
 雖モ本表ニハ之ヲ合算シ除クヘカラス
 ●達甲第二二三號 明治廿二年十二月二日

市町村會決議ニ係ル報告事項左之通相定ム

郡役所 市役所

報告事項

- 一市町村歳出入豫算表
右毎年四月中各町村分取額ヲ報告スベシ
但長崎市ハ同期限マテニ直ニ報告スベシ

- 一市町村歳入出決算書右毎年七月中各町村分取額ヲ報告スベシ
但長崎市ハ同期限マデニ直ニ報告スベシ
- 一市町村歳入出臨時増減ニ關スル件
- 一市町村財産ニ關スル件
- 一市町村税賦課ニ關スル件
右決議ノ時々報告スヘシ

但縣參事會又ハ郡參事會ノ許可ヲ要スルモノハ此限ニアラス尤モ郡參事會ノ許可ヲ經タルモノ、報告ハ別ニ定ムル所ニ從フベシ

●訓令第一號 明治廿三年一月七日 各郡長宛

町村制第九十七條末項新開地ニ關シ客年九月二十五日付ヲ以テ訓令及ヒ置キ候處今般法律第三十號地租條例改正中ニ新開地ノコトヲ規定セラレタルニ付テハ全條ノ新開地モ右ニ據ル義ト心得ラル可シ
 右訓令ス

●訓令第八號 明治廿三年一月十七日 各郡長宛

市町村ハ其組織ニ要スル事務ノ綱領及ヒ市町村ト其住民ノ權義ニ關シテハ市制町村制第拾條ニ依リ特ニ條例ヲ規定スルコトヲ得ルモ已ニ許可ヲ稟請シタル條
 例中法律ニ牴觸スルモノアリ又市町村會ノ議決ヲ以テ施行シ得ヘクシテ條例ノ
 規定ヲセサルモノ又ハ條例トシテ規定スヘカラサルモノ往々之アリ之ヲ要スル
 ニ市町村條例ハ其必要アルニ非ラスンバ之ヲ設ケ若クハ改廢スヘキモノニ非ラ
 ス然ルニ市町村會ニ於テハ往々其設置改廢ヲ容易ニセントスルノ傾向アリ就テ

ハ法律上條例ヲ以テ規定セサルヲ得サルモノ、外ハカノテ之ヲ設クルノ煩ヲ避ケシメ其條例ヲ設クルニ方テハ法律ノ範圍内ニ於テ適宜簡明ナラシムル様精々注意セラル可シ
右訓令ス

●訓令第九號 明治廿三年一月十七日 郡市長宛

町村條例番號ハ自今其條例發行ノ際逐次之ヲ付ス可キモノトシ豫メ稟請ノ際番號ヲ付スルニ及ハス若シ之ヲ付スルモノアルトモ其筋ニ於テ認メサル旨通牒有之候條其旨町村ヘ達セラル可シ
右訓令ス

●訓令第一一號 明治廿三年一月廿日 郡市長宛

町村制第六十五條ニ依リ設クル所ノ委員ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌スルモノナリト雖トモ委員ハ元ト町村長ニ從屬スヘキモノニシテ獨立ノ位置ヲ有スルモノニアラズ故ニ假令其分掌スル事務ヲ有スト雖トモ外部ニ對シテ町村ヲ代表スルコトヲ得サルノミナラス町村會ニ對シ委員ノ名義ヲ以テ議案ヲ發シ又ハ事務ノ報告ヲ爲スカ如キ職權ヲ有セサルモノトス尤トモ其分掌スル所ノ事務ニ付町村長ニ從屬シ町村會ニ發スル議案ノ下調ヲナシ又ハ町村會ノ議場ニ於テ參考ノ爲メ取扱事件ニ付陳述ヲ爲スカ如キハ實際ノ便宜ニ任セ妨ナカルヘシ委員ノ性質ニ付往々誤謬ノ解釋ヲ爲スモノ有之ヲ以テ右深ク注意セラル可シ
右訓令ス

●訓令第二八號 明治廿三年二月十四日 各郡市長宛

町村制第八十九條ニ依リ町村吏員職務上ニ於テ特ニ手數ヲ要スルモノニ付町村條例ノ規定ニ係ル手數料徵收ノ事項ヲ觀ルニ戶籍兵役租稅警察衛生教育諸營業等ニ關スル願届ノ類ニシテ法律命令ノ規定ニ依リ取扱フモノニ對シ之ヲ徵收セントスルモノ尠カラズ右ハ該條ノ法意ニ適合セサルヲ以テ手數料ヲ徵收スルヲ得サルモノトス最モ其徵收スルコトヲ得ヘキ手數料ト雖モ該金額ハ宜ク手數ニ應シテ徵收スヘキハ勿論濫リニ過當ノ金額ヲ規定スル弊ニ陷ラシメサル様深ク注意セラルヘシ
右訓令ス

●訓示第一七號 明治廿三年九月廿五日 郡市長宛

本年八月法律第七十七號ヲ以テ町役村場位置變更ノ件定メラレ候ニ付テハ自今認可ヲ乞フモノアルトキハ左ノ書類ヲ添屬シ差出候様取計ハルヘシ

- 右訓令ス
 - 一 町村會ノ議決書
 - 一 移轉ノ理由
 - 一 其町村ノ畧圖用紙美濃
- 但圖面ヘ記載スヘキ要目左ノ如シ
- 一 方位
 - 一 境界
 - 一 幅員
 - 一 山川
 - 一 五新舊役場ノ位置
 - 一 六人家アル部落ノ位置并其部落ヨリ新舊役場ヘ通スル線路及里數

●訓示第一八號 明治廿三年九月廿六日 郡市長宛

一 町村制第十五條第二項ニ該當スルモノハ選舉人名簿ニ登錄セラレ且ツ議員ニ

選舉セラレ、ロトヲ得ルニ依リ其當選者若シ本職ノ爲メ當選ヲ辭スルハ制
第八條第二項四ノ場合ニ於ケル辭選者ト一般更ニ改選ノ手續ヲ爲スヘキモノ
トス

一 助役ハ其分掌事務ニ就テハ其町村ヲ代表シ自己ノ名義ヲ以テ處分スルハ當然
ニ付町村有財産ヲ管理スル場合ニ於テ其管理ニ關スル一切ノ事項ハ助役ノ名
義ヲ以テスルハ勿論ナリト雖トモ其財産ニ關シ訴訟ヲ提起シ又ハ町村會ノ議
決ヲ經テ之ヲ賣買交換スルカ如キハ管理以外即チ分掌事務ノ外ナレバ助役ノ
名義ヲ以テスルコトヲ得サルモノトス

一 町村税ノ滯納督促手数料ハ制第二百二條ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ之ヲ徵收
スヘキモノニシテ國稅滯納處分法第二條ニ依リ直ニ徵收スルコトヲ得サルモ
ノトス

右訓示ス

●訓令第一三七號

明治廿三年十月十一日

郡長宛

町村組合ノ通常事務ヲ分掌セシムル爲メ常設委員ヲ設置スル場合ニ於テハ各町
村各別ニ之ヲ設クルハ允當ナラサル義ニ付組合ノ委員トシテ設置候様取計ヲハ
ルヘシ

右訓令ス

●訓令第八二號

明治廿四年八月三日

郡役所 市役所 町村役場

凡ソ條例ヲ設クルハ市町村自主ノ權ニ屬スト雖モ實際ノ必要アルニアラサレハ

容易ニ之ヲ定ム可ラス且ツ其始ニ當テヤ丁寧反覆之ヲ調査シ荷モ輕忽ノ取扱ヲ
爲ス可ラサルハ勿論ノ義ニ候處從來稟請スルモノヲ視ルニ或ハ法律命令ニ抵觸
シ或ハ字句ヲ置ク妥當ナラス或ハ理由ヲ附スルニ法律ノ精神ニ適合セス殊ニ甚
シキニ至テハ既ニ許可ヲ得タル條例ニシテ未タ數月若クハ期年ヲ出テス其改正
廢止ヲ決議稟申スル向キ少ナラス是レ畢竟當初周密ノ詮議ヲ盡サハルニ由ル蓋
シ條例ハ市町村ノ事務及住民ノ權利義務ヲ規定シタルモノナレハ若シ夫レ朝令
暮改ノ弊アリテハ管ニ市町村ノ事務ヲ繁劇ナラシムル而已ナラス自治體ノ鞏固
ヲ傷害スルノ恐レアルヲ以テ向後條例ヲ設クルニ當リテハ一層慎重ヲ加ヘ且ツ
萬止ムヲ得サル限リハ可成的改廢セサル様深ク注意スヘシ

●訓令第三六號

明治廿五年三月七日

各郡長宛

町村制第二百二十七條ニ據リ許可ヲ與ヘタル事件及同制ノ規定ニ據リ認可セシ事
項其他左記ノ件々其時々報告セラルヘシ

一 制第二百二十七條ニ依リ許可シタル其事件
但關係書添付

一 同第五十八條末節ニ據リ認可シタル業体

一 同第六十二條第四項ニ據リ收入役ノ選任ヲ認可シタルトキ其履歷概要及給額
身元保證金額

一 同第六十二條第六項ニ據リ事務兼掌ヲ許可シタルトキ其姓名

一 町村長助役ノ報酬並ニ給料ヲ増減シタルトキ其金額

一 町村書記人員及給額ヲ増減シタルトキ其人員及給額

但現在書記ノ人員給額ハ此際臨時ニ報告ヲ要ス
一 町村區長及代理者並ニ常設委員ノ設置又ハ其人員及報酬額ヲ増減シタルトキ
其人員及報酬額
但前項ニ同シ

訓令第三九號 明治廿五年三月十一日 郡長宛

一 町村會議決ニ係ル左記ノ件々其時々報告セラルベシ

一 町村會議員任期ニ關スル件

一 町村會議細則
一 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却
ヲナス事

達甲第五號 明治廿五年八月三日

郡役所 市役所 町村役場

市町村吏員事務引繼規程左ノ通相定ム

市町村吏員事務引繼規定

第一條 市町村長退職若クハ解職スルトキハ本規程ニ依リ在職中取扱ヒタル一
切ノ事務ヲ繼職者ニ引繼クヘシ

第二條 諸簿冊文書類ハ目錄ヲ添ヘ之ヲ引繼クヘシ

第三條 國稅地方稅市町村稅ノ賦課徵收市町村若クハ其一部所有ノ財産ノ管理
市町村費ノ支出等財務會計ニ關スル事務ハ項目ヲ分チ當時ニ於ケル事務ノ狀
況ヲ助ナラシムルニ足ルヘキ文書ヲ屬シ之ヲ引繼クヘシ

第四條 取扱中ニ係ル未完了ノ事務ハ各件取扱ノ順序ヲ明記シタル文書ヲ屬シ
之ヲ引繼クヘシ

第五條 財務會計ニ關スル事務ハ現品及金錢ノ目錄及仕譯書ヲ作り照査ノ上之
ヲ引繼クヘシ

第六條 事務ノ引繼ハ繼職者就任ノ日ヨリ十日以内ニ結了スヘシ若シ前職者退
職若クハ解職後十日以内ニ繼職者就任セサルトキハ臨時事務ヲ取扱フモノヘ
假ニ一切ノ事務ヲ引繼クヘキモノトス

前項ニ據リ假ニ事務ノ引繼ヲ受ケタルモノハ繼職者就任後五日以内ニ於テ更
ニ繼職者ニ其事務ヲ引繼クヘシ

第七條 前條ノ期限内ニ於テ事務引繼ヲ了リ難キトキハ其事由ヲ具シ事務引繼
者受繼者連署ニテ第一次監督廳ニ具申シテ許可ヲ受クヘシ

第八條 事務引繼ニ際シ其受授ニ關シ引繼者受繼者ノ間ニ意見ヲ異ニスルアル
トキハ第一次監督廳ニ開申シテ指揮ヲ請フコトヲ得

第九條 事務引繼ヲ了リタルトキハ第二條ノ目錄第三條第四條第五條ノ文書ヲ
屬シ引繼者受繼者連署ニテ第一次監督廳ニ其旨届出ツヘシ

第十條 市町村助役收入退職解職ノ片ハ前數條ニ規定セル事務引繼ノ例ニ準シ
其分掌若クハ所管ノ事務ノ引繼ヲナスヘシ

但シ第七條第八條第九條ノ具申書届書等ハ市町村長ヲ經由シテ差出スヘ
キモノトス

第十一條 事務引繼ノトキハ監督官廳ヨリ吏員ヲ派遣シ臨檢セシムルコトヲア

ルヘシ

●達甲第一〇二號

明治廿五年八月三日

郡役所 市役所 町村役場

市町村事務報告例左ノ通相定ム

市町村事務報告例

第一條 市町村ハ此ノ報告例ノ規定ニ依リ報告ヲナスヘシ
報告ヲ要スル事項ハ附録ヲ以テ之ヲ定ム

附録ニ記載セサル事項ト雖モ重要ト認ムルモノハ臨時報告ヲナスヘシ

第二條 市ノ報告ハ縣知事ニ町村ノ報告ハ郡長ニ提出スルヲ以テ例トス但別段ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第三條 町村ノ報告ニシテ郡長ヨリ更ニ縣知事ニ報告ヲ要スルモノハ本縣令達ニ於テ別ニ定ムル所ニ依ル

第四條 事務報告ハ特別ノ規定アルモノ、外即報トシ其事件ノ生シタル即日報告スルモノトス

第五條 即報ヲ用ヒス定期若クハ豫メ報告ヲ要スルモノハ附録ニ於テ定メタル區別ニ依ル

即報豫報ノ部ニ屬スル事項ヲ除ク外附録ニ記載セル事項ニ關シ各町村ヨリ郡長ヘ報告ヲナスノ期日ハ各郡令達ノ規定ニ依ルモノトス

第六條 附録ニ記載シタル事項ノ報告ニ關シ様式添付書類等ニ付縣郡ノ令達ニ別段ノ規定アルモノハ其規定ニ從フヘシ

第七條 附録ニ記載スル項目ノ外法律命令ニ規定アルモノ、國縣ノ行政事務(戶籍兵事學事等)ニシテ法律命令又ハ本縣令達ヲ以テ報告ヲ徵スルモノ及町村政ニ關スル事項ニシテ別段ノ令達ニ依リ郡長ヨリ縣知事ニ報告ヲ要スル事項ハ各其規定ニ依ルモノトス

附録

豫報

一市町村會議員選舉施行期日

即報

一市町村會議員選舉ノ結果

二市町村會議員ノ退任及辭職

三市町村會ノ開閉議事及其決議事項

四市町村會議決ノ執行停止及再議ニ付シタルノ事件及其理由

五市町村會議員選舉ノ効力ニ關スル處分

六市町村公民權ノ特免停止及市町村費増課處分

七市町村內ニ區ヲ設置シ區長及代理者ヲ置ク事及之ヲ廢スル事

八常設及臨時委員ヲ設置シ又ハ之ヲ廢止スル事

九市町村吏員ノ結果十市町村長市參事會員助役及收入役ノ就任及退任

十一市參事會員市町村助役分掌事項

十二市町村會議事細則及市役所町村役場內ノ諸規程

十三市町村吏員ノ懲戒處分

- 十四 一時借入金及三年以内ノ公債募集
 - 十五 學藝美術ニ關スル物品ノ異動
 - 十六 市町村歳入出豫算及其臨時増減
 - 十七 市參事會處務細則
 - 十八 市町村吏員及委員ノ給與報酬ニ關スル議増減議決及其人員ノ増減
 - 十九 市町村會議員任期計算及更任ニ關スル事
 - 二十 豫算外ニ新ニ議務ヲ負擔シ若クハ權利ヲ棄却スル事
 - 廿一 市町村會及市參事會町村長ノ裁決
- 期報
- 一 市基本財産調 報告期 毎年四月三十日
 - 二 市負債高調 全 全
 - 三 市歳入決算表 全 毎年七月中
 - 四 市歳出決算表 全 全
 - 五 市會(議員及被選舉權選舉權調) 全 毎年一月三十一日
 - 六 市書記以下人員給額 全 毎年一月十五日以内
 - 七 市區長及代理者常設委員人員報酬額 全 全
 - 八 市吏員報酬給料及雜給需用費建築費修繕費豫算(精算)金額表 全 毎年豫算ハ決議精算ハ報告濟ノ翌月中
 - 九 市吏員受退隱料人員金額表 全 毎年一月中

八月達甲第一〇六號ヲ以テ巡視復命式ヲ定ム

- 十 町村基本財産調
 - 十一 町村負債高調
 - 十二 町村歳入決算表
 - 十三 町村歳出決算表
 - 十四 町村會(議員及被選舉權選舉權調)
 - 十五 町村長助役收入役報酬給料額
 - 十六 町村書記以下人員給額
 - 十七 町村區長及代理者常設委員人員報酬額
 - 十八 町村收入役人名及身元保証金額
 - 十九 町村吏員報酬給料及雜給需用費建築費修繕費豫算(精算)金額表
 - 二十 町村吏員受退隱料人員金額表
- 達甲第一〇三號 明治廿五年八月三日
- 郡役所 市役所 町村役場
- 町村巡視規定左ノ通相定ム
- 町村巡視規程
- 第一條 郡長ハ少クモ毎年一回管内各町村ヲ巡視シ其行政ヲ監督スヘシ
 - 第二條 郡長ハ時々主務吏員ヲ派遣シ管内町村ヲ巡視セシムヘシ
 - 第三條 前條ニ掲タル郡吏員ノ巡視ヲ分テ定期及臨時巡視ノ二トス
- 定期巡視ハ毎年六月管内各町村ニ就キ其行政ノ全般ヲ巡視スルモノトス
- 臨時巡視ハ必要ニ依リ特定事項ヲ巡視スルモノニシテ郡長ノ臨時指揮スル所

ニ依ル

第四條 定期巡視ノ期月ニ於テ郡長第一條ノ巡視ヲ行フキハ便宜第二條ノ定期巡視ヲ省略スルコトヲ得

第五條 定期巡視ニ於テハ管内ヲ數區ニ分チ便宜豫メ派遣吏員巡視ノ適當區ヲ定ムルコトヲ得

第六條 巡視スヘキ事項ノ詳目ハ各郡其必要ニ應シ適宜之ヲ定ムヘシト雖トモ左ニ掲クル所ノ概例ニ準據スヘシ

本條ノ概例ニ依リ別ニ巡視事項ノ詳目ヲ定メタルキハ其時々縣知事ニ報告スヘシ

一 町村全体ノ狀況(平穩無事ナリヤ否ヤ黨派軋轢ノ弊アルヤ否ヤノ類)

二 制限特免名譽職ノ拒辭退職不執行ニ對スル町村會ノ決議處分

三 町村會ノ裁決吏員ノ撰舉及其他決議事項

四 町村條例及規則ノ實施及其効果

五 町村會議員撰舉景況

本項ニ付テハ撰舉人名簿ノ調製其縱覽及投票ノ手續撰舉録ノ調製并ニ議員更任ニ關スル町村規定ノ適否其他ノ事況ヲ觀察スヘシ

六 町村會議ノ景況

本項ニ付テハ議事録ノ調製議事規則ノ適否其他ノ情況ヲ觀察スヘシ

七 町村會ノ行政監督

八 吏員ノ勤怠能否及事務ノ成績(土木事業教育勸業ノ舉否若クハ兵事戶籍等

ノ整否ノ類)

九 町村役場事務分課及執務ノ体裁

十 町村事務ノ狀況(事務ノ繁閑便否ノ類)

十一 吏員ノ處置法律命令ノ規定ニ違背シ若クハ不當ノ廉ナキヤ否ヤ

十二 吏員ノ村民ニ對スル接遇

十三 吏員ト會議トノ折合

十四 區長及代理者並ニ常設委員ノ施務ノ狀況

十五 吏員ノ報酬並給料額ノ當否

十六 營造物及財産ノ管理

十七 簿書ノ整頓並ニ保存

十八 町村稅賦課徵收ノ狀況

本項ニ付テハ負擔ノ輕重課稅ノ適否督促手数料ノ徵課納稅ノ延期並ニ滯納處分ノ狀況ヲ觀察スヘシ

十九 町村稅ノ賦課營造物等使用ニ關スル訴願及裁決

二十 公債ノ整理

廿一 現品夫役ノ賦課

廿二 豫算決算ノ整否

廿三 出納ノ正否現金ノ保管

廿四 町村長ニ於テ行ヒタル懲戒處分

第七條 巡視ノ際検査スヘキ簿冊及事業ノ成績ヲ觀察スルニ付注意スヘキ事項

ハ別ニ示達スルコトアルヘシ

巡視員ノ心得ハ訓令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムヘシ

第八條 郡吏員巡視ヲ終ヘタルキハ其視察セル事況ヲ詳具シ意見アルトキハ之

ヲ添付シテ十日以内郡長ヘ復命スヘシ

復命ノ様式ハ別ニ定ムル處ニ依ル

第九條 郡長第一條ノ巡回ヲ了リタルキ及前條ニ依リ郡吏員定期巡回ノ復命ヲ

得タルキハ一ヶ月以内ニ於テ將來ノ施設ニ付意見ヲ添ヘ巡視ノ狀況ヲ縣知事

ヘ報告スヘシ

郡長郡吏員ノ臨時巡回ニシテ必要ト認ムル事項ニ關スルキモ亦隨時報告ヲナ

スヘキモノトス

第十條 郡長第一條ノ巡視ヲナスキ及郡吏員ヲシテ定期ノ巡視ヲ行ハシムルキ

ハ豫メ其時日ヲ縣知事ニ報告スヘシ

第十一條 市町村巡視ノ爲メ臨時派遣スル縣官ノ巡視モ本規程ノ例ニ準スルモ

ノトス

●達甲第一〇六號 明治廿五年八月三日

郡役所

本縣達甲第三百三號町村巡視規程第八條復命書式左之通相定ム

復命書式(第一號)

何年何月何日定期(臨時)町村巡視復命

何町(村)

一 町村全体ノ狀況

無事又ハ何々黨争アリテ云々

一 町村條例ノ實施及効果

本村ニハ常設委員條例ノ規程アリテ其實施ノ狀況云々

一 簿書ノ整頓並ニ保存

本村ハ概シテ帳簿整理セルモ何々違式ノ廉アルニ依リ云々注意セリ

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

一 何々

何町(村)

巡視日程書式(第二號)

何年何月何日定期(臨時)巡視日程

何月何日 何役場巡視

何月何日 何役場巡視了リ即日何村ニ向ケ出發途次何役場ヲ巡視セリ

何月何日

何月何日

記載例

- 一 復命書ハ各町村別ニ記事体ニ之ヲ記載スルモノトス
- 一 記事ハ第一號ノ様式ニ依リ視察セシ各項目ニ付其事蹟ヲ詳具スルモノトス
- 一 巡視ノ際注意ヲ與ヘタル事柄及將來更正處分ヲ要スルモノト認メタル事項ハ隨所隨項之ヲ記スルモノトス(第一號ノ様式ニ於テ其例ヲ示セルカ如シ)
- 一 將來ノ處分ニ付大体ニ關スル意見書トシテ別ニ之ヲ添付スヘシ
- 一 復命書ニハ第二號様式ニ依リ認メタル巡視日程ヲ添付スヘシ

● 乾第一二六二號

明治廿五年十一月十八日

各郡長宛

町村制ニ關シ請訓

町村長助役ニシテ町村會ノ議長トナリ其職務ヲ執行(官廳諮問ニ對スル答申村長助役ノ認許伺議員召集其他一切)スル場合ニ於テ議長ノ捺印ハ公印(町村長助役ノ公印)ヲ用フニヘキヤ又ハ實印ヲ用フニヘキモノナルヤ目下差掛リ居候ニ付御指揮相成度此段請訓候也

● 訓示第七號

明治廿五年十一月廿二日

北松浦郡長宛

明治廿五年十一月十八日付乾第一二六二號請訓町村會議長印ノ件ハ町村長助役ノ公印ヲ用ユヘキ義ト心得ラルベシ

● 訓令第二七號

明治廿六年一月廿七日

(島司郡長市長宛)

二十六年五月訓令二第
四二號ニテ第一項中更
正文文通

從前公稱スル字名ノ義ハ明治十四年第八十三號公達ノ旨趣ニ依リ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラサルモ已ムヲ得サル事實アリテ改稱變更ヲ必要トスルモノニ限リ左ノ規程ニ依リ取扱ヲ爲ス可シ

- 一 市町村內大字名(市制町村制施行ノ際分合シタル舊區町村名へ從來獨立町村

廿七年三月訓令四七號
廿八年八月訓令四六號
三十一年九月訓令六三號
三十一年八月訓令八一號
號全年九月訓令八八號
ニテ改正本文通

內ノ支郷又ハ某組ト唱フル部落等ノ總稱)及市内從來ノ町名ヲ改稱シ又ハ其區域ノ變更ヲ要スルトキハ市町村會之ヲ議決シ知事ノ許可ヲ受クヘシ但町村ニ屬スルモノハ郡長ヲ經由シ郡長ハ意見ヲ副申スヘシ

二 市町村內ノ小字名(市内從來ノ町名ヲ除ク)ヲ改稱シ又ハ其區域ノ變更ヲ要スルハ關係アル地主ノ意見ヲ聞キ市町村會之ヲ議決シ知事ノ許可ヲ受ク可シ但町村ニ屬スルモノハ郡長ヲ經由シ郡長ハ意見ヲ副申ス可シ

三 水面埋立地其他新開地等新ニ字名稱ヲ付スルトキハ第二項ノ例ニ依ル可シ

四 市町村ノ境界ニ關スル爭論ノ裁決及ヒ民事訴訟ノ判決ニ依リ字名ノ訂正又ハ其區域ヲ變更スヘキトキハ市參事會町村長(町村制施行セサル地方ハ戶長及ヒ之ニ準スル吏員)ヨリ市ハ知事ニ町村ハ郡長ニ申報セシメ郡長ハ知事ニ報告ス可シ

五 町村制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ仍ホ從前ノ手續ニ依ル其小字名ニ關スル者ハ知事ノ許可ヲ受ク可シ

● 達甲第八十五號 明治廿六年十一月廿五日 對馬島廳

島廳規程左ノ通改定ス

島廳規程

第一條 島廳ニ二課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一課 一 吏員ノ進退身分ニ關スル事項

- 二 文書ノ往復ニ關スル事項
- 三 議員選舉及會議ニ關スル事項
- 四 農工商務ニ關スル事項
- 五 縣稅備荒儲蓄並町村經濟ニ關スル事項
- 六 府縣費ノ會計ニ關スル事項
- 七 外國人及海外渡航ニ關スル事項
- 八 左ノ外他課ノ主務ニ屬セザル事項

第二課

- 一 教育ニ關スル事項
- 二 兵事ニ關スル事項
- 三 土木及地理ニ關スル事項
- 四 社寺ニ關スル事項
- 五 衛生ニ關スル事項
- 六 族籍並改姓名ニ關スル事項

第二條 各課ニ課長一人ヲ置キ島廳書記ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 島司ハ部内ノ官吏ヲ指揮監督シ其進退ハ之ヲ知事ニ具狀スルヲ得

但戶長學校職員巡查及看守ノ進退ニ係ルモノハ施行シテ後報告スヘシ

第四條 島廳ハ其須要ニ從ヒ雜給雇員俸給内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第五條 島司ハ廳中處分ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第六條 島司ハ其職權若クハ特別委任ニ依リ諸官衙ニ公文往復スルコトヲ得

附則

第七條 本規程第四條ハ明治廿八年四月一日ヨリ其他ハ廿六年十二月一日ヨリ施行ス

訓令一第一三一號 明治三十年二月廿二日

各郡長

郡制施行ニ關スル件左記之通心得ラルヘシ

右訓令ス

一 郡制第五條議員數制限ニ超過スル郡ハ客年十二月末日調人口ヲ標準トシ其町

村ニ就キ配當法ノ取調ヲナシ來ル四月五日迄ニ認可ヲ受クベシ

一 議員數制限以内ノ郡ハ郡制施行ノ日ヨリ制限超過ノ郡ハ認可書到達ノ上郡制

第十六條及第十七條ニ依リ告示ヲナシ選舉會ヲ開クベシ

一 郡制第十五條大地主名簿ハ選舉期日ヲ定メ右期日迄ニ(地價ハ名簿調製期日

ヲ定メ豫メ告示シ其期日マラニ)資格ヲ有スル者ヲ登記シ其氏名ヲ告示シ且

選舉會ヲ開クヘシ

一 當選人確定シタルトキハ郡制第廿一條ノ手續ヲナシ直ニ郡會開設第一郡會議

長代理者郡參事會員及其補充員ヲ互撰セシムヘシ

一 郡費收入ニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ明治廿三年法律第八十五號第六條ニ

依リ認可ヲ請フヘシ

訓令一第三〇二號 明治三十年四月十五日

各郡役所

郡制ニ關スル左記ノ事項確定ノ時々報告スヘシ
右訓令ス

- 一 郡會議員當選及辭任
但定期及補缺選舉及辭任トモ人別住所姓名記載ヲ要ス
- 一 大地主名簿
- 一 郡會議決諸件
議案及説明トモ總テ郡會ニ付シタルモノニシテ議決上異動ノ廉ハ朱書訂正ヲ要ス
- 一 郡會ノ互選ニ係ル名譽職參事會員住所姓名
- 一 郡參事會議決諸件

但郡制第五十條第一第二第三ニ據ル議決ニシテ書式郡會ニ同シ
一 委員ノ住所姓名

但臨時又ハ常設ノ區別及取扱フヘキ事件記載ヲ要ス

●訓令第三二二號

明治卅二年四月十二日

島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場

明治廿五年(五月)達甲第六五號縣稅檢査規程左ノ通改正ス

縣稅檢査規程

- 第一條 縣稅檢査事務ニ從事セシムル爲メ縣屬及郡書記ノ中ニ就キ特ニ縣稅檢査員ヲ命ス
- 第二條 縣稅檢査員ハ必ス檢査員ノ証票ヲ携帶スヘシ

檢査員ノ証票ハ關係者ノ請求ニ應シ何時タリトモ之ヲ示スヘシ

第三條 檢査員ハ左ノ事項ヲ查察スヘシ

- 一 戶長役所市役所町村役場徵稅ニ關スル諸帳簿ノ整否
- 二 戶長役所市役所町村役場徵稅事務ノ舉否
- 三 課稅ノ適否
- 四 課稅ノ標準トナル事項
- 五 納稅ノ景況
- 六 脫稅ノ有無
- 七 其ノ他縣稅ニ關シ必要ナル事項

第四條 諸營業中居商ハ其ノ商店ニ就キ諸仲買及行商ハ其ノ要路又ハ市場職工ハ職工場遊藝稼人其ノ他ノ藝人ハ興行場ニ就キ檢査スヘシ

第五條 檢査員ハ諸營業者ノ戶別ニ就キ其ノ營業鑑札ヲ査閱シ裏面ニ檢査濟ノ証印ヲ捺スヘシ

第六條 檢査員職務ヲ行フニ當リ犯則者アリタルトキハ能ク稅則ノ主旨ヲ諭シ納稅セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ說諭ニ應セサルカ又ハ犯狀ニ依リ默過シ難キ事情アルモノハ告發スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ事情ヲ具シ内務部長及當該郡長(對馬ハ島司)ニ申報スヘシ

第七條 檢査員職務ヲ行フニ當リ必要ト認ムルトキハ所轄戶長市町村長若クハ吏員ノ立會ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ戶長市町村長ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第八條 検査員ハ十日毎ニ検査ノ實況ヲ具シ内務部長及當該郡長(對馬ハ島司)
ニ申報スヘシ

第九條 島司郡長ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ脱稅者ニ係ル徵稅額ヲ當
廳ニ報告スヘシ

●庶第三〇七八號 明治十七年十二月八日

各郡長へ庶務課長ヨリ申進

自今戶長ニ於テ執務上法律規則等ニ對シ疑義ヲ有スルモノアルキハ總テ貴官ニ
於テ訓示御取計相成度尤モ法律規則等ノ範圍ノ外部ニ於テ事務ノ便宜ヲ施サン
トスルカ又ハ例規外ニ屬スル事件ヲ處理セントスル等行政事務ノ處分ニ屬スル
事件ハ從前ノ通縣會ノ指揮ヲ請フヘキヲ勿論ノ義ニ有之候東彼杵郡長伺指令相
添へ此段申進候也

(別紙)

第一六九四號 明治十七年十一月二十七日東彼杵郡長伺

各村戶長ヨリ差出ス伺書之義ニ付伺

各村戶長ヨリ法律規則中疑義ニ涉ル實義ハ多クハ當廳へ向ケ伺來候得共又聞
ニハ當廳ヲ措キ御廳へ向テ伺出ル向モ有之候是區々一定致サス少シク穩當ナ
ラザルモノ、如シ右ハ其事柄ノ輕重如何シニモ相關スヘシト雖モ當廳ニ於テ
指令シ得ヘキ限リハ直ニ之ニ指令シ又指令シ得ヘカラサル分ハ尙ホ當廳ヨリ
御廳ニ經伺ノ上及指令候得ハ實際差支ノ筋モ有之間敷況シテ戶長ヨリ御廳へ

向ケ經伺スルト當廳へ向ケ經伺スルトハ其遠近遲速ノ別モ有之義ニ付自今戶
長ヨリ差出ス伺書へ總テ當廳宛ニ差出候様一定致度此段相伺候也

指 令 一 丁庶第四六三三號 明治十七年十二月二日

書面伺之趣單ニ法律規則等ノ疑義ヲ訓示スルハ伺之通取計不苦候事

●廳達第五一號

明治卅二年四月十九日

縣稅検査員

縣稅検査員服務心得左ノ通相定ム

縣稅検査員服務心得

一 縣稅検査事項ニ付テハ検査規程ノ定ムル所ニ從ヒ嚴密ニ之ヲ查察シ本規程ノ
實効ヲ舉クルコトニ深ク注意スヘシ

二 検査ノ方法順序ハ事實ニ依リ適宜斟酌スルニトアルヘシト雖モ概テ左ノ各項
ニ準據ス可シ

一 徵收ニ關スル諸帳簿ノ整否ニ付テハ日計簿、收納簿、營業原簿等法式ニ適
合スルヤ否ヤヲ調査スルコト

二 徵稅事務ノ舉否ニ付テハ徵收法施行細則ノ規程ニ照ラシ徵稅令書若クハ
傳令書ノ發布及稅金收納ノ取扱手續等ヲ查察スル事

三 課程ノ適否ニ付テハ市町村會又ハ聯合町村會ニ於テ議決セシ各自稅額查
定ノ狀況及其他徵稅額ノ適否並一般縣稅額負擔ノ輕重等ヲ查察スル事

四 課稅ノ標準トナル事項ニ付テハ賣上金高届出ノ當否及營業者カ所持スヘ
キ帳簿ノ整否船車等ハ其物件ニ付噸數等ノ類ヲ調査スル事

五納税ノ景況ハ納期內完納スルヤ否等納税ノ實況ヲ查察スル事
 六脱税ノ有無ニ付テハ諸營業ハ營業場船車等ハ其物件ニ就キ無届ニアラサ
 ルヤ否ノ類ヲ查察スル事
 七其他縣稅ニ關シ賦課徵收上必要ナリト認ムル事項ハ遺漏ナク調査スル事
 三犯則者ヲ發見シタルトキハ別ニ定ムル所ノ用紙ニ依リ受書ヲ差出サシメ直ニ
 所轄戶長市町村長ニ通知シ徵稅ノ手續ヲ爲サシムヘシ
 四犯則者ヲ告發スルトキハ證據トナルヘキ材料ヲ檢舉シ又ハ手續書ヲ作り署名
 捺印セシムヘシ若シ署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨
 ヲ附記スヘシ

第七類 地方經濟

●甲第八號

明治十七年二月六日

徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用支辨ノ爲メ徵發費徵收規則左ノ通相定候條此旨布
達候事

徵發費徵收規則

第一條 徵發費ヲ分ツテ三種トス

第一 縣費

第二 郡區費

第三 町村費

第二條 縣費ハ徵發令第十二條第一項ノ物品徵發ニ係ル費用ニシテ本縣管内ニ
賦課スヘシ

第三條 郡區費ハ徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ物件徵發ニ係ル費用ニシ
テ其郡區內ニ賦課スヘシ

第四條 町村費ハ徵發令第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ノ物件徵發
ニ係ル費用ニシテ其町村內ニ賦課スヘシ

第五條 縣費ハ概テ左ノ科目トス

- 一 諸雇給 物品ノ番人等臨時雇給
- 一 運送費 人足賃其他車馬舟等ノ雇賃
- 一 需用費 臨時雇ノ者使用スル炭油蠟燭等ノ諸費
- 一 雜費 物件集会所ノ借家地料等

第六條 縣費ハ實費或ハ豫算ノ金額ヲ臨時賦課徵收スル者トシ前年度各郡區地
方稅ノ納額(地租割戶數割營業稅種稅等納稅ノ總額ヲ云フ)以下皆之ニ同シ
ニ比例シ賦課額ヲ定メ各郡區ニ達スヘシ

第七條 郡區長ハ前年度各町村地方稅納額ニ例シ賦課額ヲ定メ各町村ニ達スヘ
シ

第八條 戶長ハ前年度每人別ノ地方稅納額ニ依リ左ノ課數ヲ調査シ此總課數ヲ
以テ該町村ニ係ル賦課總金額ヲ除シ一課ノ金員ヲ算出シ之ヲ每人別ノ課數ニ
乘シ賦課額ヲ定メ每人別ニ達スヘシ
一 前年度地方稅納額 五十圓以上壹圓未満 壹課

二十九年四月縣令一四
號ヲ以テ第三條削除三
十年八月縣令第二一號
ニテ第二條改正三十一
年三月縣令第二〇號ニ
テ賦金額表中改正本文
ノ通

一同 壹圓以上五圓未満 三課
 一同 五圓以上拾圓未満 六課
 一同 拾圓以上拾五圓未満 九課
 一同 拾五圓以上五圓ヲ増ス毎ニ三課ヲ加フ
 第九條 徵發令第十二條第一項ノ物品徵發ノ賦課ヲ受ケタル町村ハ縣費ノ賦課
 ヲ免除スルコトアルヘシ
 第十條 戶長ハ其受持町村内ノ課金ヲ取集メ郡長ニ差出シ郡區長ハ一郡區内ノ
 課金ヲ取集メ縣廳ニ納ヘシ
 但徵收ノ期日ハ賦課ノ時々違スヘシ
 第十一條 縣費收支ノ計算ハ其時々告示スヘシ
 第十二條 郡區費町村費ノ賦課及ヒ徵收方法ハ郡區長ヨリ其郡區町村内ニ達ス
 ヘシ
 ●縣令第五號 明治廿九年一月廿日
 地方稅雜收入中貸坐敷並娼妓賦金規則左之通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス
 第一條 貸坐敷並娼妓賦金規則
 額ヲ定メ娼妓賦金ハ一人月額ヲ以テ之ヲ定ム
 第二條 貸坐敷營業者ハ毎年四月一日現在ニ依リ(新規開業者ハ其時々)同業組
 合ニ於テ各自ノ負擔額ヲ定メ之ヲ島司郡市長ニ届出ヘシ
 但各自ノ負擔ヲ定ムルカ爲メ一免許區域内ノ納額ヲ減スルヲ得ス

第四條 賦金ハ免許又ハ廢業ノ日ニ拘ハラズ其月分全額ヲ賦課スヘシ
 但本縣内他郡市又ハ他町村ヨリ轉籍寄留セシモノニシテ賦金納濟ノ証左
 アルモノハ此限ニアラス
 第五條 娼妓ニシテ檢徵規則若クハ取締規則ニ依リ其月十日以上營業ヲ停止シ
 タルモノハ日割ヲ以テ賦金ヲ免スヘシ
 但此場合ニ於テハ醫師ノ證書ヲ添ヘ島司郡市長ニ届出ヘシ
 第六條 賦金ノ納付期日ハ毎月十五日限トス但シ新タニ免許ヲ受ケタルモノハ
 其際納付スヘシ
 第七條 賦金徵收ノ手續ハ地方稅徵收細則ニ準據スヘシ
 貸坐敷並娼妓賦金表

郡市名	免許地名	貸坐敷一戶平均月額	娼妓一人月額
長崎市	丸山町 寄合町	六圓	貳圓
全市	戶町村 大浦郷	五圓	壹圓五拾錢
東彼杵郡	佐世保村	五圓	壹圓五拾錢
長崎市	淵	五圓	壹圓五拾錢
下縣郡	大手橋町	參圓	壹圓參拾錢
北松浦郡	平戶村	參圓	壹圓

北松浦郡	全郡	大島村	貳圓	八拾錢
全郡	平島村	貳圓	八拾錢	
全郡	崎戸村	貳圓	八拾錢	
全郡	日見村	貳圓	八拾錢	
全郡	瀬戸村	貳圓	八拾錢	
全郡	面高村	貳圓	八拾錢	
全郡	樺島村	貳圓	八拾錢	
全郡	松島村	貳圓	八拾錢	
西彼杵郡	福田村	貳圓	八拾錢	
全郡	大村	參圓	壹圓	
東彼杵郡	早岐村	參圓	壹圓	
長崎市	戸町村 舟津郷	參圓	壹圓	
全郡	口ノ津村	參圓	壹圓	
南高來郡	湊町	參圓	壹圓	

三十二年三月縣令八五號同四月縣令一五號ニテ困点ノ通改正追加

●縣令第二一號 明治卅一年三月廿八日
縣稅賦課規則施行細則左之通相定ム

南松浦郡	福江村	貳圓	八拾錢
全郡	有川村	貳圓	八拾錢
壹岐郡	田河村	貳圓	八拾錢

●縣令第二一號 明治卅一年三月廿八日
縣稅賦課規則施行細則

第一條 營業稅雜稅課目(船及車ヲ除ク)ノ諸業ヲ新クニ開業セントスル者ハ第一號書式ニ依リ市ハ市長ニ其他ハ戶長町村長ヲ經テ島司郡長ニ届出テ鑑札ヲ受ケヘシ

第二條 戶長町村長ニ於テ前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ稅額見込ヲ附シ之ヲ島司郡長ニ進達スヘシ

第三條 島司郡長ニ於テ前條ノ届書ヲ市長ニ於テ第一條ノ届書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ鑑札下付及徵稅ノ手續ヲ爲スヘシ

但第四條第二項ノ諸業ハ第二號其他ノ諸業ハ第三號樣式ノ鑑札ヲ下付スヘシ

第四條 諸營業者鑑札ヲ受ケタルトキハ第四號樣式ニ依リ標札ヲ製シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

諸行商、運賃取牛馬、牛馬賣買、職工、外國軍艦へ雜品賣込、自轉車、及各種漁業ノ該當者ハ其鑑札ヲ携帶スヘシ

第五條 鑑札ハ貸借ヲ許サス

第六條 鑑札面ニ異動ヲ生スルカ若クハ亡失毀損等ノ節ハ届出テ書換又ハ再渡ヲ受クヘシ

第七條 免稅ニ屬スル營業ヲ爲ス者ハ市ハ市長ニ其他ハ戶長町村長ヲ經テ島司郡長ニ届出免稅鑑札ヲ受クヘシ

第八條 廢業死亡等ニ依リ納稅義務消滅シタルトキハ鑑札ノ裏面ニ其事由及年月日ヲ記入シ記名調印ノ上市ハ市長ニ其他ハ戶長町村長ヲ經テ島司郡長ニ返納スベシ

第九條 營業人其業體ヲ轉換シ若クハ課稅物件ニ異動ヲ生シタルトキハ第一條及第八條ニ準シ届出ツヘシ

第十一條 戶長町村長ハ毎年四月一日並十月一日現在戶數及營業人員ヲ調査シ其月五日限リ之ヲ島司郡長ニ報告スヘシ但后半期ニ在リテハ現住戶數及營業人員ノ外各自ノ賦課額任譯書ヲ添付スルヲ要ス

第十二條 島司郡長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ徵稅令ヲ發スヘシ

第十五條 市町村會又ハ聯合町村會ニ於テ各自ノ賦課額決定シタルトキハ其議決書ヲ毎年五月十日限リ市長ハ知事ニ戶長町村長ハ島司郡長ニ報告シ島司郡

長ハ知事ニ報告スヘシ

第十六條 收入高ニ依リ納稅ス可キ營業者ハ收入帳簿ヲ備ヘ置キ日々記帳シ翌月一日戶長市長町村長へ届出ヘシ

戶長町村長前項ノ届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ調査シ全月五日限リ島司郡長ニ報告スヘシ

第十七條 屠畜營業者ハ屠殺ノ時々其種類頭數ヲ戶長市長町村長ニ届出ツヘシ

第十八條 鯨及鯨營業者ハ捕獲ノ種類頭數ヲ流寄鯨及鮪建込營業者ハ捕獲ノ時々其入札金高ヲ戶長市長町村長ニ届出ツヘシ

戶長町村長前項ノ届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ調査シ島司郡長ニ報告スヘシ

第二十條 納稅者其住居地ヲ離ルトキハ納稅代人ヲ定メ双方連署戶長市長町村長ニ届出ツヘシ

第二十一條 左ニ記載スル船舶ヲ新造シタル者ハ其定繫場所轄ノ戶長町村長ヲ經テ島司郡長ニ市ハ市長ニ届出テ鑑札ヲ受クヘシ

一 登陸噸數五噸未満若クハ積石五拾石未満ノ帆船
一 檣樑ノミヲ以テ運航シ若クハ主トシテ檣樑ヲ以テ運航スル船舶
第二十二條 前條ノ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ戶長町村長ヲ經テ島司郡長ニ市ハ市長ニ届出テ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

但新定繁場所轄ノ島司郡市長ハ其旨ヲ舊定繁場所轄ノ島司郡市長ニ
 通牒シ船籍ノ删除ヲ求ムヘシ
 第二十三條 船艦札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ定繁場所轄ノ戶長町村長ヲ經
 テ島司郡市長ニ市ハ市長ニ届出テ其再下付ヲ受クヘシ
 第二十四條 解船破船又ハ水火盜難等ニ依リ船船ヲ失ヒタル者ハ定繁場所轄ノ
 戶長町村長ヲ經テ島司郡市長ニ市ハ市長ニ届出テ艦札ヲ返納スヘシ
 第二十五條 船船所有者居住居地ヲ離ルルトキ又ハ他都市ニ定繁場ヲ定ムルトキ
 ハ定繁場所轄郡市内ニ納稅代人ヲ定メ連署ノ上定繁場所轄戶長町村長ヲ經テ
 島司郡市長ニ市ハ市長ニ届山ツヘシ
 第二十六條 船艦札ハ船尾内部ノ側面ニ釘付スヘシ
 第二十七條 諸車ヲ新造シタル者ハ戶長町村長ヲ經テ島司郡市長ニ市ハ市長ニ届
 出烙印ヲ受クヘシ
 第二十八條 諸車ヲ譲渡シタルトキハ双方連署ノ上讓受人所轄戶長町村長ヲ經
 テ島司郡市長ニ市ハ市長ニ届出ツヘシ
 但本文ノ場合ニ於テ前後所轄ヲ異ニスルトキハ第二十二條但書ノ手續ヲ
 準用ス
 第二十九條 諸車所有者住所ヲ移轉シタルトキハ移轉地ノ戶長町村長ヲ經テ島
 司郡市長ニ市ハ市長ニ届出ツヘシ
 但前後所轄ヲ異ニスルトキハ第二十二條但書ノ手續ヲ準用ス
 第三十條 免稅ニ屬スル諸車所有者ハ所轄戶長町村長ヲ經テ島司郡市長ニ市ハ市

長ニ届出テ免稅ノ烙印ヲ受クヘシ
 第三十一條 左ノ場合ニ於テハ所轄戶長町村長ヲ經テ島司郡市長ニ市ハ市長ニ届
 出テ烙印ヲ受クヘシ
 一 馬車馬ノ匹數ヲ増減シタルトキ
 二 車ニ修繕ヲ加ヘ税金ニ差違ヲ生シタルトキ
 一 車体ノ烙印ヲ磨滅毀損シタルトキ
 第三十二條 左ノ場合ニ於テハ所轄戶長町村長ヲ經テ島司郡市長ニ市ハ市長ニ届
 出ツヘシ
 一 車ヲ解撤シタルトキ
 一 代替若クハ氏名ヲ變更シタルトキ
 第三十三條 縣稅ハ左ノ期間内ニ徵收スヘシ
 但納期末日一般ノ休日ニ當ルトキハ順延トス
 全額其年四月二十六日ヨリ五月十五日迄
 地 租 割 前半年期其年五月十六日ヨリ六月十五日迄
 戶 數 割 后半年期十一月十六日ヨリ十二月十五日迄
 營 業 稅 前半年期其年五月一日ヨリ同月三十一日迄
 雜種稅年稅 后半年期十一月一日ヨリ全月三十日迄
 營業稅附加稅 其月十五日限
 雜種稅月稅 許可ノ時々
 雜種稅日稅

雜種稅步稅 前月分翌月十五日限

雜種稅頭數稅 屠殺又ハ漁獲ノ時々

第三十四條 營業臺帳及船車臺帳諸證札船車烙印ハ第二號乃至拾號様式ニ依ル

附則

第三十五條 明治二十九年十二月本縣令第三十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
第一號書式 (印ハ朱書)

縣稅營業届

年税金 何程 公印

一何々營業

右御届仕候也

何郡何市町村何番戶

何 某

生年月

年月日

右

何 某

島司郡長市長宛

備考

- 一 戶長町村長ハ書式ノ位置ニ稅額見込ヲ朱記捺印スヘシ
- 一 水車乘馬等ノ類ハ其個數頭數及營業自用ノ區別ヲ記載スヘシ
- 一 營業者未成年ナルトキハ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第二號

木製證札表

第 號

業 目

郡市町村番戶

何 某

二寸五分

備考 免稅ニ屬スルモノハ業目ノ傍免稅ノ二字ヲ朱記スヘシ

第三號

紙製證札

第 號

業 目

郡市町村番戶

何 某

五寸八分

備考 免稅ニ屬スルモノハ業目ノ傍免稅ノ二字ヲ朱記スヘシ

第九號 船鑑札

解漁船又ハ小廻船遊船ト記ス但積石五拾石未滿ノ船ハ小廻船ト記スベシ
一問未滿ノ船ハ一問未滿ト記スヘシ
木札寸法曲尺堅五寸幅三寸厚及木品適宜

第何號

何國何郡市

定繫場 何港 何々(湖)岸

島廳 郡市役所 何 船 船梁ヨリ何間 船梁マテ何間 (又ハ噸數)

名烙印

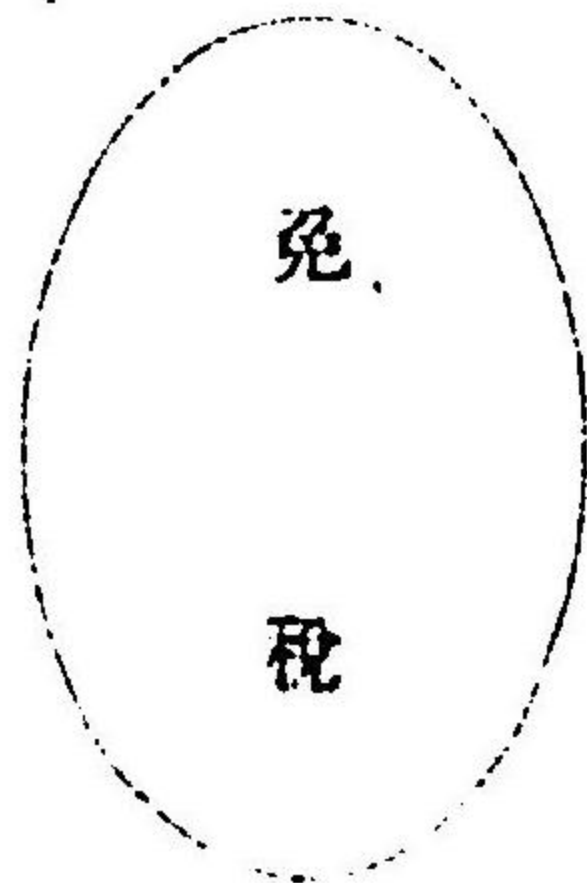
何國何郡市何町番戶 何ノ誰

明治何年何月日

第拾號 車烙印 堅二寸五分橫八分

船車烙印 堅二寸橫一寸二分

長崎縣島廳郡市役所



諸車區別烙印 各堅二寸橫八分

二匹立	二人乘
大車	荷馬車

備考 車ノ種類ニ依リ稅額ヲ異ニスルモノヲ區別スヘシ

●縣令第七八號 明治卅一年十二月廿八日

縣稅徵收法施行細則左ノ通相定ム

明治二十八年(十二月)告示第百八十八號並ニ三十年(七月)縣令第十八號ハ廢止ス

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

縣稅徵收法施行細則

第一條 縣稅ノ收入命令ハ島司郡市長ヘ委任シ徵稅令書ヲ發セシム

第二條 島司郡長ニ於テ發スル徵稅令書ハ第一號書式ニ依リ調製シ年稅ハ納期(納期數日ニ涉ルモノハ初日ヨリ起算ス)二十日以前月稅ハ其ノ月三日限リ隨時徵收ハ其ノ時々之レヲ發スヘシ

市長ニ於テ各納税人ニ交付スル徵稅令書ハ第二號書式ニ依リ調製シ納期(納期數日ニ涉ルモノハ初日ヨリ起算ス)七日以前隨時徵收ハ其ノ時々之レヲ交付スヘシ

第三條 戶長町村長ニ於テ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ徵稅傳令書ヲ調製シ納期(納期數日ニ涉ルモノハ初日ヨリ起算ス)七日以前ニ各納税人ニ交付スヘシ

第四條 地租額及戶數營業人員等ノ異動ニヨリ徵稅令書ノ金額ニ増減ヲ生シタルトキハ戶長町村長ハ直ニ其ノ事由ヲ島司郡長ニ申報スヘシ

第五條 島司郡長ニ於テ徵稅令書發付後調定額ニ増減ヲ生シタルトキハ第四號書式ニ依リ其ノ増減額ヲ戶長町村長ニ通告スヘシ

第六條 戶長町村長ハ各納税人ヨリ納付セル税金ヲ取繼ノ納期後三日以内第五號書式ノ納付書ヲ添ヘ縣金庫ニ納付シ其ノ領收證ヲ出納吏ニ差出し出納吏ハ式ノ如ク檢印シテ戶長町村長ニ交付スヘシ

但納期中取繼メタル税金ハ數回ニ之レヲ分納スルコトヲ得

第七條 府縣稅徵收法第八條ニ據ル出納吏ノ事務町村ニ屬スル分ハ島司郡長ヲシテ之レヲ取扱ハシム

第八條 島司郡市長ハ縣稅滯納處分ニ係ル財產差押命令ヲ發スヘシ

第九條 出納吏及市長ハ國稅徵收法第三章ニ掲クル收稅官吏ノ事務ヲ取扱フモノトス

但時宜ニ依リ戶長町村長ニ其ノ事務ノ全部又ハ一部ヲ委任スルコトヲ得

第十條 納税人滯納税金又ハ滯納處分費ヲ完納セントスルトキハ第六號第七號書式ノ納付書ヲ添ヘ縣金庫ニ納付スヘシ

但市ノ納税人并ニ督促狀ノ發付ヲ戶長町村長ニ委任シタル場合ハ各其ノ役所ニ納付スヘシ

前項本文ノ税金又ハ滯納處分費ハ郵便爲替又ハ送金手形ヲ以テ直ニ出納吏ニ納付スルコトヲ得

第十一條 滯納處分ニヨリ徵收シタル現金ハ出納吏ニ於テハ直ニ縣金庫ニ拂込ミ戶長町村長ニ於テハ第六條ノ手續ニ依ルヘシ

第十二條 税金ノ過誤納ノ發見シタルトキハ其ノ金額事由ヲ詳記シ各納税人ハ戶長町村長ニ戶長町村長ハ出納吏ニ出納吏及市長ハ知事ニ還付ヲ請求スヘシ

第一號 (用紙適宜)

第何號	明治何年度	何町村	長氏名	納
縣稅	何稅(款)	何稅(項)	何期分	(又ハ何期時)
納期	何月何日			

徵稅令書

元帳 一金何程

割印

右何地縣金庫ニ納付スヘシ

第二號 (用紙適宜)		年月日		島司(部)長氏名印	
第何號	明治何年度	何町(郷)何番戶氏名納	何町(郷)何番戶氏名納	何町(郷)何番戶氏名納	何町(郷)何番戶氏名納
縣	稅	何稅(款)	何稅(項)	何期分	(又ハ何期時)
元帳	割印	一金何程			
右何年何月何日限リ長崎市收入役へ納付スヘシ					
市長氏名印					
第何號	明治何年度	何町(郷)何番戶氏名納	何町(郷)何番戶氏名納	何町(郷)何番戶氏名納	何町(郷)何番戶氏名納
縣	稅	何稅(款)	何稅(項)	何期分	(又ハ何期時)
元帳	割印	一金何程			
右領收候也					
市收入役氏名印					

第三號 (用紙適宜)

第三號 (用紙適宜)		年月日		何町村長氏名印	
第何號	明治何年度	何町村氏名納	何町村氏名納	何町村氏名納	何町村氏名納
縣	稅	何稅(款)	何稅(項)	何期分	(又ハ何期時)
元帳	割印	一金何程			
右何年何月何日限リ何町村收入役へ納付スヘシ					
何町村長氏名印					
第何號	明治何年度	何町村氏名納	何町村氏名納	何町村氏名納	何町村氏名納
縣	稅	何稅(款)	何稅(項)	何期分	(又ハ何期時)
元帳	割印	一金何程			
右領收候也					
何町村收入役氏名印					

明治何年度何期(又ハ何期) 縣稅增(減)額通告書
 一金 何 程
 但第何號徵稅令書ノ分何々ニ依リ増(減)
 右 通告 ス
 年 月 日
 戶長(町村長)宛
 島司(郡)長氏名印

第五號 (用紙適宜)

第何號	明治何年度	市	町	村	分
縣	稅	何	稅	款	何
稅	項	何	期	分	(又ハ何時時)
徵稅令書第何號ノ分(又ハ內)					
一金 何 程					
右納付候也					
年 月 日					
市町村長氏名印					
縣金庫印					
第何號 明治何年度					

縣	稅	何	稅	款	何	稅	項	何	期	分	(又ハ何時)
徵稅令書第何號ノ分(又ハ內)											
○一金 何 程 ○縣金庫主任印											
出納吏檢印											
右領收候也											
年 月 日											
何地縣金庫印											
縣金庫印											
○出納吏檢印											
第何號	明治何年度	市	町	村	分						
縣	稅	何	稅	款	何						
稅	項	何	期	分	(又ハ何時)						
徵稅令書第何號ノ分(又ハ內)											
一金 何 程 ○縣金庫主任印											
年 月 日 領收証檢印											
何地縣金庫ノ納付											

備考

市長ニ於テ用ユル納付書ハ徵稅令書番號ハ掲記セズ

第六號 (用紙適宜)

納付書		領收書 (甲)	
縣	明治何年度	縣	明治何年度
稅	何稅(款)	稅	何稅(款)
	何稅(項)		何稅(項)
	何期分		何期分
	(又ハ何期時)		(又ハ何期時)
一金何程 右納付候也		縣金庫 郡市町村番戶 何某納	
年月日 郡市町村番戶 何某印		縣金庫主任印 若クハ收入役印	
出納吏檢印 年月日領收		何地縣金庫印	

納付書		領收書 (乙)	
縣	明治何年度	縣	明治何年度
稅	何稅(款)	稅	何稅(款)
	何稅(項)		何稅(項)
	何期分(又ハ何期時)		何期分(又ハ何期時)
縣金庫 郡市町村番戶 何某納		縣金庫主任印 若クハ收入役員名印	
出納吏檢印 年月日領收証檢印		何地縣金庫印	
備考 戶長市町村長ニ於テ第十條但書ニ依リ徵收スル場合ハ領收証書乙號ヲ用ヒス又最前發シタル徵稅令書若クハ徵稅傳令書ヲ以テ便宜本書ニ換用スルヲ得			
第七號 (用紙適宜)			
明治何年度	納	領	收
雜收入	辦價金	滯納處分費	辦納金
一金何程			

第四條 米穀ヲ儲蓄スルトキハ長崎ニ集儲シ適宜新穀ト交換スルモノトス

第二章 支出

第五條 罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給與スル制限左ノ如シ

第一 水火風震等ノ災並ニ流行病ニ罹リ目下凍餒ニ迫ル者ハ食料トシテ男一人一日玄米五合(七十歳以上十三歳以下ハ女ノ割合ニ依ル)女一人一日玄米四合ノ割ヲ以テ日數十日以内其郡市前月下米相場ニ依リ代金ヲ給與ス

第二 全上自ラ小屋掛ヲ營ム能ハサル者ハ災害ノ輕重ニ依リ小屋掛料トシテ壹戸金五圓以内適宜給與ス但シ借家住居及全居ノ者ハ此ノ限ニアラス

第三 全上自ラ農具ヲ購フ能ハサルモノハ農具料トシテ一戸金貳圓五拾錢以内適宜給與ス

第四 一町村若シクハ數町村一時ニ暴災ニ罹リ目下窮迫ノ者ハ焚出米ヲ給與スルヲ得ルト雖モ第一項ノ制限ヲ越ルヲ得ス
假小屋ヲ掛ケ若クハ借家ヲ爲シ一時ノ急ヲ救フコトアルヘシ此場合ト雖トモ更ニ小屋掛料ヲ贈フモノアルトキハ仍第二項制限内ヨリ其假小屋借家ニ係ル費用引去リ給與スルヲ得

第五 非常ノ變災ニ罹リ種穀ナキ者ハ種穀料トシテ壹戸金貳圓以内適宜給與ス

第六條 罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルニアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル窮民ニ其租額ノ不足ヲ貸與スル制限左ノ如シ

第一 市町村內壹戸所有ノ田地或ハ畑地平均六分以上ノ損毛ニ涉ルトキハ左ノ區分ニ從ヒ貸與スヘシ	損毛歩合	皆無	九分以上	八分以上	七分以上	七分未滿
	地租賃與歩合	全額	九分通	八分通	七分通	六分通
	返納年限	十ヶ年賦	九ヶ年賦	八ヶ年賦	七ヶ年賦	六ヶ年賦

第二 貸與金ノ歩合ハ實際ノ調査或ハ本人ノ情願ニ依リ制限以内貸與スルヲ得尤モ此ノ場合ニ於テハ返納年限モ實際貸與ノ歩合ニ從ヒ右制限ニ準シ定ムルモノトス(假令ハ皆無ニシテ地租五分通リヲ貸與スレハ五年賦トシテ五分通リ餘ナレハ六年賦トスルカ如シ)

第三 損毛歩合ヲ定ムルハ齋破免檢見ノ取扱振リニ則リ改租ノ際定メタル取糶米ニ比較査定スルモノトス

第四 畑方ハ麥作ヲ以テ定作トス若シ損毛ニテ地租賃與ヲ願フトキハ其町村ニ本籍ヲ定メ地租金ヲ納ムルモノ三人以上ニテ之ヲ檢査シ歩合ヲ認定シ一人別調帳ヲ製シ島廳又ハ郡市役所ヘ進達セシメ直チニ貸與スルモノトス但シ此ノ場合ニ於テハ縣官派遣監査セシムヘシ

第五 田畑收穫後納租前罹災ノ爲メ米穀及ヒ財産ヲ失ヒ地租ヲ納ムル能ハサル者ハ十年以内適宜年賦返納ノ定メヲ以テ其租額ノ全部若クハ幾分ヲ貸與スヘシ

第七條 第六條第五項ニ依リ貸與ノ許可ヲ受クタル者ハ保證人及市長町
村長又ハ戸長連署借用證書ヲ出スヘシ

第八條 儲蓄金般公債證書取扱ニ係ル費用ハ儲蓄金ヨリ支出スルモノトス

第三章 返納

第九條 貸與金ハ貸與ノ翌年ヨリ年々十月中町村長又ハ戸長之ヲ取立島廳又ハ
郡役所ヘ納ムヘシ

但長崎市ハ市長之ヲ取立直チニ縣廳ヘ納付スヘシ

第十條 貸與金返納年限中所存ノ耕地ヲ賣却スルトキハ年期ニ拘ハラヌ其地ニ
係ル貸與金ハ登記ノ日ヲ期シ悉皆返納スヘシ

但相對契約ニ依リ買得者ニ於テ其返納金ヲ引受年期ニ從ヒ返納スルモ
妨ケナシト雖トモ此場合ニ於テハ借用證書ヲ書改ムヘシ

第十一條 貸與金返納年限中ニ係ル耕地ハ生存者ノ家督相續又ハ死亡者遺囑ノ
贈遺ニ由テ讓受クタル分トモ惣テ讓受人ニ於テ借用証券ヲ書改ムヘシ

但シ讓受ノトキ前條ニ準シ貸與金ヲ一時返納スルモ妨ケナシ

第十二條 貸與返納年限中ニ於テ罹災ノ爲メ潰地トナル地ニ係ル返納未済金ハ
棄捐スヘシ

第十三條 貸與金返納年期中ニ於テ再ヒ罹災ノ爲メ貸與ヲ受クルトキハ往年ノ
返納未済金ハ棄捐スヘシ

第十四條 第五條第六條ニ依リ給與若クハ貸與ヲ願フトキ市長町村長戸長ハ勿
論同市町村內ニ於テ本籍ヲ有シ地租金ヲ納ムル者三人以上(一町村若シクハ

第四章 檢査及處分

第十五條 前條出願スルトキハ島司郡市長ハ實地ヲ檢査セシメ或ハ之ヲ要セス
シテ直チニ規則ニ依リ相當處分スルヲ得但シ田畑ノ損毛ヲ檢査シ貸與ヲ行フ
ハ此ノ限ニアラス

第十六條 儲蓄金ノ出納決算ハ翌々年通常縣會ニ報告スヘシ

第十七條 府縣稅徵收法第八條府縣出納吏ノ事務ハ島司郡市長ヲシテ其取扱ヲナサシム
(參照) 府縣稅徵收法ハ廿三年十月法律第八十八號

第十八條 府縣稅徵收法ハ廿三年十月法律第八十八號

地方稅經濟ニ係ル物品購入規則左ノ通り相定ム

地方稅經濟ニ係ル物品購入規則

第一條 物品ヲ購入セントスルトキハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第二項 見競法

第三項 特撰法

第五章 決算

第十六條 儲蓄金ノ出納決算ハ翌々年通常縣會ニ報告スヘシ

第十七條 府縣稅徵收法第八條府縣出納吏ノ事務ハ島司郡市長ヲシテ其取扱ヲナサシム
(參照) 府縣稅徵收法ハ廿三年十月法律第八十八號

第十八條 府縣稅徵收法ハ廿三年十月法律第八十八號

地方稅經濟ニ係ル物品購入規則左ノ通り相定ム

地方稅經濟ニ係ル物品購入規則

第一條 物品ヲ購入セントスルトキハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第二條 入札法ハ左ノ各項ニ依ルモノトス

第一項 入札法ニ依リ物品ヲ購入セントスルトキハ其品名ヲ詳記シ二日以上廣告スヘシ

第二項 入札者ニハ入札ト同時ニ見本品ヲ差出サシムヘシ

第三項 入札ハ開札後遂算又ハ誤記等ノ故ヲ以テ代價ヲ増減スルコトヲ許サス

第四項 入札ハ主任者二名以上立會各所長ノ面前ニ於テ開札シ最低價ノ者ヲ落札者ト定ム

但代價不相當ト見認ムルトキハ取消スコトアルヘシ

第五項 落札ルヘキ代價同額ノモノアルトキハ抽籤ニ依ルヘシ

第六項 買上ヲ命シタルトキハ其物品ヲ五日以内ニ上納スヘシ若期限内上納セサルモノハ之ヲ除名シ再入札ヲナスカ又ハ順次三番札マテノ者へ買上ヲ命スルコトアルヘシ

但特ニ期限ヲ定メ上納セシムルモノハ此限ニアラス

第七項 入札ハ三人以上ニアラサレハ無効トス

第三條 見競法ハ二人以上ノ營業者ヨリ見本品及ヒ積書ヲ徴シ其物品ノ善惡代價ノ高低ヲ見計ヒ買上ヲ命スヘシ

第四條 買上代價百圓以上ハ落札代價百分ノ五ヲ身元保証金トシテ徴シ置クヘシ

第五條 身元保証金ハ買上物品完納ノ上還付ス若シ落札人其期限内ニ完納セサルモノハ身元保証金ノ金額還付セス

但非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサルノ証アルトキハ此限ニアラス

第六條 特撰法ハ入札法及見競法ニ依リ難キ場合ニ其時々撰定シクル營業者ヨリ購求スルモノトス

第七條 見競法及特撰法ハ一種一品ノ代價拾圓未満トス

第八條 囚徒ノ製造品ヲ購入スル場合ニ限リ第七條ノ金額ニ拘ハラヌ第一條第三項ニ依リ直ニ購入スルコトヲ得

第九條 入札書案左ノ如シ

一何々	何程	金何程	一個ノ價何程
一何々	全	全	全
一何々	全	全	全
計金何程			

右物品購入規則ニ依リ入札ス

年月日

住所番戶

何 誰 印

各所宛

告示第二一九號 明治三十年十一月十五日

本縣名譽職參事會縣會議員給與規程部下賜金縣有財產編入ノ件慈惠救濟基金設置及管理規則縣財產管理規則縣參事會委任事項臨時縣會ニ於テ左ノ通議決シタリ

名譽職參事會員縣會議員給與規程

- 第一條 名譽職參事會員縣會議員ノ旅費及滞在手當ハ別表定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程及日數ニ應シ之ヲ支給ス
- 第二條 汽車貨船船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ニ應シ之ヲ支給ス但一位未滿ノ端數ハ計算セズ
- 第三條 旅行日當ハ汽車ハ一日貳百哩詰汽船ハ一日百海里詰陸路ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス一日行程未滿ノ端數ト雖モ其路程一位以上ナルトキハ一日分ヲ支給ス但數種ノ旅行相跨ルトキハ各一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ陸路ニ換算スルモノトス
- 第四條 滞在中其日數議長副議長ハ尙滞在ヲ要スル日數ニ應シ旅費ノ支給ヲ受クルモノニ限リ之ヲ支給ス但開會前閉會後ト雖モ上縣下縣南松浦、壹岐ノ四郡ニ限リ前後各五日以内其他ハ三日以内支給スルコトアルヘシ
- 第五條 名譽職參事會員ノ出務日當ハ議會ニ出席セシ日數ニ應シ滞在手當ハ滞在ヲ要スル日數ニ應シ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス但出務日當ヲ支給スルトキハ滞在手當ヲ支給セズ
- 第六條 名譽職參事會員縣會議員本縣内他町村ニ寄留スルトキハ寄留ノ地ヲ以テ旅費ヲ計算ス

名譽職參事會員縣會議員旅費滞在手當及出務日當額別表

旅		費	
滞在手當	出務日當	滞在手當	出務日當
汽車賃	一哩ニ付	一哩ニ付	一哩ニ付
海船賃	一海里ニ付	一海里ニ付	一海里ニ付
車馬賃	一里ニ付	一里ニ付	一里ニ付
旅行日當	一日ニ付	一日ニ付	一日ニ付
金六錢	金七錢	金三拾錢	金壹圓五拾錢
		金壹圓五拾錢	金壹圓五拾錢

英照皇太后ノ大喪ニ際シ慈惠救ノ資ヲ補ハシムルノ 思召ヲ以テ御下賜相成タル整理公債證書額面七千百圓ハ縣有財産ニ編入スルモノトス

長崎縣慈惠救濟基金設置及管理規則

- 第一條 恩賜ノ整理公債證書額面七千百圓ヲ基本トシ之ニ縣歲出金ヲ加ヘ慈惠救濟基金ヲ設クルモノトス
- 第二條 慈惠救濟基金ニ編入スヘキ縣歲出金ノ額ハ貳年度貳千圓以上トス
- 第三條 慈惠救濟基金ハ五萬圓ヲ目的トス
- 第四條 慈惠救濟基金ハ縣經濟中特別會計トス
- 第五條 慈惠救濟基金ハ公債證書ヲ以テ之ヲ保存スルモノトス
- 第六條 慈惠救濟基金ヨリ生スル收入金ハ縣下慈惠救濟ノ事業ニシテ其基礎確實ナリト認ムルモノニ對シテ補給スルモノトス
- 第七條 慈惠救濟基金管理ノ爲メ特ニ要スル費用ハ慈惠救濟基金ヨリ生スル收入金ヲ以テ支辨スルモノトス
- 第八條 慈惠救濟基金ニ關スル歲入歳出ハ毎年度豫算ヲ以テ之ヲ縣會ニ付議シ決算ハ報告スヘキモノトス

但其歲計剩餘金ハ本基金ニ編入スヘシ

第九條 慈惠救済ノ名義ヲ以テ寄附ヲ爲ス者アルトキハ本基金ニ編入スルモノトス

第十條 慈惠救済基金整理ノ方法ハ此規則ニ規定スルモノヲ外縣有財產管理規則ニ依ル

縣有財產管理規則

第一條 此ノ規則ニ於テ縣有財產ト稱スルハ縣ノ所有ニ屬スル土地、建物、船舶、及其附屬物並ニ現金公債証券ヲ云フ

第二條 縣有財產ハ其所在種類及數量等ヲ明瞭ナラシムル爲メ臺帳ヲ備ヘ置クモノトス

第三條 縣有財產ノ賣却及貸附ハ總テ公告シテ競争ニ附スヘシ但左ノ場合ニ於テハ競争ニ附セサルコトヲ得

一 公共ノ事業ニ供スル爲メ郡市町村及公共組合並ニ其ノ他ノ起業者ニ貸附又ハ賣却スルトキ

二 公益ノ爲メ又ハ營業ノ目的ニアラサル事業ノ爲メニ貸附スルトキ

第四條 縣有財產ノ賣却代金ハ其財產引渡ノ際一時ニ納付セシムルモノトス

第五條 縣有財產ノ貸附又ハ預入期限ハ特別ノ規定アルモノトス但第五ケ年以内トシ相當ノ貸附料又ハ利子ヲ納付セシムルモノトス但第三條但書第一第二ノ場合ハ特 貸附料ヲ納付セシメサルコトヲ得

第六條 縣有財產ノ貸附料ハ毎年四月前納付セシムルモノトス其一ケ年ニ滿タサルモノハ月割ヲ以テ計算ス一時ノ貸附ニ係ルモノハ貸附ノ際納付セシムルモノトス但貸附財產修理ノ費用負擔方法及其他必要ナル条件ハ貸附契約ノ際定ムルモノトス

第七條 特別ノ資金ハ公債證書ニ代ヘ之ヲ管理シ又ハ金庫若クハ銀行ニ預ケ入ルヘキモノトス

第八條 左記ノ事項ハ縣參事會ノ議決ニ依リ之ヲ處理スヘキモノトス

- 一 公債證書ノ購入又ハ賣却ノ事
- 二 見積價格ニ依リ賣買シ能ハサルトキ其賣買價格ヲ定ムル事
- 三 第五條本文ノ期限及貸附料金額利子ノ歩合並利子納付期限ヲ定ムル事
- 四 第五條但書ニ依リ貸附料ノ徵否ヲ定ムル事
- 五 第六條但書ニ依リ書面ニ掲載スヘキ要件ヲ定ムル事
- 六 爲換方命令ノ條文ヲ定ムル事

附則

第九條 本規則施行以前締結シタル契約ハ總テ舊契約ヲ繼續スヘキモノトス

長崎縣參事會委任事項

- 本縣會ハ府縣制第十六條ニ依リ臨時ニ起ル左記事項ノ議決ヲ縣參事會ニ委任ス
- 一 縣經濟ニ對シ寄附スル金穀物件ノ受否及歲入歳出豫算追加ノ事
- 一 請願調査ニ係ル歳入歳出豫算追加ノ事
- 一 當該年度内ニ於テ豫定ノ事業完成スルニ至ラサルトキ之ヲ完成スルカ

三十一年十二月告示二
三八號ニテ附點ノ分追
加

三十一年十二月告示二
三七號ヲ以テ本文附點
ノ通進加及改正

- 一 爲メ其殘額ヲ翌年度歳入歳出豫算ニ追加ノ事
- 一 數年ヲ期シテ竣功スヘキ事業ニシテ繼續費總額ヲ定メタルモノ當該年度ノ事業完成セサルカ爲メ又ハ完成スト雖モ其殘額ヲ竣功年度迄遞次繰越スノ必要アルトキ其繼續支出方法及歳入歳出豫算追加ノ事
- 一 舊縣道土地並木處分ノ事
- 一 前數項ノ議決ハ次回ノ通常縣會ノ初メニ於テ縣參事會ヨリ之ヲ縣會ニ報告スヘキモノトス

●告示第二五號

明治卅一年二月九日

(本文中三十一年度營業稅雜種稅課目課額ハ本年度限リノモノニ付省略ス) 長崎縣々稅賦課規則

第一章 地租制

第一條 地租制ハ前納トシ毎年度歳入豫算ニ定メタル課率ニ依リ其年四月一日現在ノ地租ニ賦課ス

但新ニ納稅義務ノ起リタル者ハ其翌月一日ヲ以テ賦課期日トス

第二章 營業稅雜種稅

第二條 營業稅雜種稅中年稅ハ前納トシ前後二期ニ分テ前期ハ四月一日後期ハ十月一日ヲ以テ賦課期日トス

但新タニ納稅義務ノ起リタル者ハ其翌月一日ヲ以テ賦課期日トス

雜種稅中月稅ハ前納トシ毎月一日ヲ以テ賦課期日トス但新タニ納稅義務ノ起リタル者ハ其翌月一日ヲ以テ賦課期日トス

三十一年十二月告示二
三七號ヲ以テ本文附點
ノ通進加及改正

前二項ノ外ハ左ノ區別ニ依リ賦課期日ヲ定ム

- 一 日稅ハ前納トシ許可ノ時々
- 一 屠宰稅鮭稅鮫稅流寄鮭稅鮪建込稅ハ屠殺又ハ漁獲ノ時々
- 一 火葬場稅市場歩稅ハ前月分翌月一日

第三條 營業稅雜種稅中平均稅率ヲ以テ賦課スルモノハ毎年四月一日現在人員(各別課稅ノ課目ヲ兼業セシ者ハ各別ニ計算ス)ニ平均稅率ヲ乘シタル金額ヲ以テ各營業人ノ負擔總額トシ之ヲ市町村ニ配付ス

第四條 市町村前條ノ配付ヲ受ケタルトキハ其年四月三十日限リ市町村會又ハ聯合町村會ニ附シ各營業人ノ等差ヲ設ケ其課額ヲ議決スヘシ但シ等差ヲ設ケル爲メ其市町村ノ納稅總額ヲ減スルヲ得ス

第五條 前條各營業人ノ等差ヲ設ケタルニ當リ其業體國稅ト同種ノ者ハ該市町村内前年度國稅營業稅ノ最低額ヲ超過スルヲ得ス

第六條 漁業稅中諸網船定稅ハ課目課額ニ定ムル市町村納額ヲ市町村會又ハ聯合町村會ニ附シ毎年四月一日現在數ニ依リ等差ヲ設ケ其年四月三十日限各自ノ稅額ヲ議決スヘシ但シ等差ヲ設ケル爲メ其市町村ノ納稅總額ヲ減スルヲ得ス

第七條 平均稅率ヲ賦課スル諸營業及諸網船定稅ニシテ稅額決定後新タニ開業スル者ノ稅額ハ市町村會又ハ聯合町村會ニ於テ議決シタル等級若クハ課額ヲ標準トシ假ニ相當ノ稅ヲ賦課シ置キ次ノ市町村會又ハ聯合町村會ニ附シ議決スヘシ

第八條 他管下ノ者本縣下ニ於テ漁業ヲ營ム者ハ課目課額ニ定ムル稅率ニ依リ賦課ス若シ規定外ノ漁業ヲ爲ス者ハ第七條ニ依リ賦課ス

第九條 甲年度後半期ニ於テ廢業ノ者及其家族ニシテ同市町村内ニ於テ乙年度前半期中再營業ヲ爲シ又ハ年度内前半期ニ廢業ノ者後半期ニ於テ再營業ヲ爲ス者ハ其市町村平均稅率以上ヲ賦課ス但諸網釣船定稅ニシテ本文ニ該當スル者ハ廢業當時ノ負擔額以上ヲ賦課ス

第十條 他管下ノ者本縣下ニ滞在シ店舗ヲ設ケス商品ヲ販賣スル者ニシテ納稅ノ證左ナキトキハ第七條ニ依リ賦課ス

第十一條 諸營業ハ一軒内ト雖トモ二人以上開店シ若クハ本店ノ外ニ開店スル者ハ各別ニ賦課ス

第十二條 工業人ニシテ其製造物品ヲ自家店頭ニ陳列販賣スル者ハ單ニ工業稅ヲ賦課ス但シ他ノ物品ヲ販賣スルトキハ別ニ商業稅ヲ賦課ス

第十四條 市場定稅ハ市町村會ノ議決ヲ以テ各營業者ノ負擔ヲ定ムヘシ

第十五條 諸營業者ニシテ届出ヲ爲ササル者アルトキハ第七條ニ依リ其市町村當時ノ課額ニ照シ業体相當ノ稅ヲ一時ニ賦課ス
物件ヲ目的トシ賦課スルモノ其届出ヲ爲ササル者アルトキハ通稅期間ノ税金ヲ一時ニ賦課ス

第十六條 從來銷網大敷納込ノ網代ニシテ廢業中ノ區畫使用人アルトキハ課目課額ニ定ムル朱書稅額ヲ賦課ス但新規發見ノ網代ハ近傍網代ノ稅額ヲ標準トシ假リニ相當ノ稅ヲ賦課シ置キ次ノ市町村會又ハ聯合町村會ニ附シ議決ス

ヘシ

第十七條 諸網釣船定稅額指定ナキ町村ニ於テ新タニ開業者アル場合ハ假リニ相當ト認ムル稅額ヲ賦課シ置キ次ノ市町村會又ハ聯合町村會ニ附シ議決スヘシ

第十八條 船体及車体ヲ變更シタルトキハ次期ヨリ其積量間數等ニ應シ税金ヲ賦課ス

第十九條 數種兼業ノ者ハ其内一ノ重キニ就キ課稅ス但左ニ掲タル兼業ヲ相互兼業スル者ハ各別ニ賦課ス

- 一 商業
 - 一 工業
 - 一 雜種稅中各課目
- 第二十條 左ニ掲タルモノハ税金ヲ免除ス
- 一 各自收穫ノ農産物及漁業ヲ賣捌ク者但店舗ヲ開キ販賣スル者ハ此限ニアラス
 - 一 各自收穫ノ農産物及漁業ニ手工ヲ加ヘ賣捌ク者但店舗ヲ開キ販賣スル者又ハ行商スル者若クハ模製製造蠟油製造ハ此ノ限ニアラス
 - 一 職工及理髮人ノ弟子手傳ニシテ賃錢ヲ收得セサル者
 - 一 河川又ハ溜池等ニ於テ遊漁ヲ爲ス者
 - 一 自用ノ爲メ設置シタル水碓又ハ碓田二個以内ノ水車
 - 一 盲啞又ハ自ラ歩行シ能ハサル者ニシテ職工及遊藝師匠遊藝人タル者

一遊技遊藝ノ類ニシテ木戸錢ヲ收得セス路傍ニ於テ業ヲ營ム者
 一製糸紡績ノ事業ヲ爲ス者但店舗ヲ開キ販賣スル者ハ此限ニアラス
 一倉庫船
 一水田ノ耕作ニ用ユル船
 一水災ノ爲メ陸地ニ備置ク船
 一橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用ユル船
 一船橋ノ組成ニ用ユル船
 一航海中本船ニ揚置ク傳馬船「バッテリー」ノ類
 一荷車ノ内耕作一途ニ用ユルモノ
 一官署公署所有ノ船車
 一學校生徒練習ノ爲メ専用スル船
 一消防器械運搬用ノ車
 一鑛業借區内ニ於テ鑛物運搬ニ専用スル車
 一演劇其他ノ興行ニシテ營利ノ目的ニアラスシテ單ニ神佛祭典ノ爲メ又ハ慈善ノ爲ニスルモノ

第四章 附加税

第二十一條 營業税法ニ依リ營業税ヲ納ムル者ニハ附加税トシテ毎年度歳入豫算ニ定ムル課率ニ依リ賦課ス

第五章 戸數割

第二十二條 戸數割ハ前納トシ毎年度歳入豫算ニ定メタル課率ニ依リ前後二期

ニ分チ前期ハ四月一日後期ハ十月一日ヲ以テ賦課期トス但新タニ納税義務ノ起リタル者ハ其翌月一日ヲ以テ賦課期トス

第二十三條 戸數割ハ左ノ各項ニ該當スル者ニ賦課ス
 一本籍寄留戸主非戸主ヲ問ハス現住シテ一戸ヲ爲ス者
 一同居異炊ノモノ

第二十四條 戸數割ハ毎年四月一日現在戸數ニ依リ其年四月三十日限市町村會若クハ聯合町村會ノ議決ヲ以テ各戸税額ノ等級ヲ立ツヘシ但其市町村ノ配賦額ヲ減スルヲ得ス

第二十五條 四月一日以後新タニ納税義務ノ起リタル者ハ平均税率ニ依リ賦課ス

第二十六條 恤救規則ニ依リ救助ヲ受クル者ハ戸數割ヲ免除ス

●告示第六四號 明治卅一年三月三十一日

縣立長崎病院規則左ノ通り改正ス

第一章 通則

第一條 縣立長崎病院ハ公衆ノ疾病ヲ診察治療ス

第二條 診察スル患者ヲ分テ通院患者入院患者及學用患者ノ三種トス

第三條 診察所ヲ分テ左ノ五科トス
 内科診察所
 外科診察所
 眼科診察所

產科婦人科診療所

小兒科診療所

第四條 診察時間ハ日ノ長短ニ依リ其時々之レヲ定メ院内ニ揭示スヘシ

第五條 診察時間外ニ來院シ診察ヲ乞フモノアルトキハ事情ニ依リ特ニ之ニ應
スルコトアルヘシ

診察時間外ニ診察スルトキハ急病患者ト否トニ拘ハラヌ總テ特別診察料ヲ納
メシムルモノトス

第六條 診察ヲ乞ハントスルモノハ住所氏名年齢職業ヲ受付係ニ申告シ診察料
ヲ納付シ診察券及番號札ヲ受取り指示ノ診察所ニ差出シ控所ニ在テ醫員ノ指
揮ヲ待ツヘシ

第七條 左ノ休日ハ新患者ヲ診察セス

但急病患者ハ此限リニアラス

大祭日 祝日 日曜日

十二月廿八日ヨリ翌年一月五日迄

第八條 往診ヲ乞フモノアルトキハ危篤ノ病症又ハ不得止事故アル場合ニ於テ
院務ノ都合ニ依リ之レニ應スルモノトス

第九條 往診ヲ乞ハントスルモノハ請求用紙ヲ受付係ニ求メ患者ノ住所氏名職
業ヲ記入シ往診料ヲ添ヘ差出スヘシ

第十條 院内ニ於テハ患者及附添人來訪人等ハ院内諸規則ヲ遵守スヘシ

第二章 通院患者

三十一年七月一日告示
一一七ヲ以テ十一條但
書圈點ノ通追加更正

第十一條 通院患者ニ於テ再診若クハ藥劑ヲ請フモノハ初診ノ際受取りタル診
察券ヲ携帶シ更ニ番號札ヲ受取り診察又ハ藥劑請求ノ手續ヲナスヘシ

但診察券ノ有効期限ハ滿三ヶ月トス期限内診察券ヲ亡失シ再渡下付ヲ申
請スルモノハ手数料金貳錢ヲ納ム可シ

第十二條 醫員ヨリ交付セシ處方箋ハ之ヲ庶務部ニ差出シ藥價ヲ納付シ領收証
印ヲ受ケ之レヲ藥劑部ニ差出シ藥劑ヲ受取ルヘシ

手術ヲ受クヘキ患者ハ醫員ヨリ交付セシ手術券ヲ庶務部ニ差出シ料金を納付
シ該手術券ニ領收証印ヲ受ケ更ニ之ヲ醫員ニ差出シ手術ヲ受クヘシ

第三章 入院患者

第十三條 入院治療ヲ乞フモノハ醫員ノ交付セシ入院券ニ長崎市若クハ全市附
近ニ一家ヲ構ヘ身元儲カナル者一名ノ保証人ヲ定メ第一號様式ノ保証書ヲ添
ヘ差出スヘシ

但事宜ニ依リ保証金トシテ入院料半ヶ月分ニ相當スル金額ヲ前納セシメ
退院ノ節之レヲ返付ス

第十四條 入院患者重症ナルトキハ家族等ノ内ヨリ附添人ヲ附セシムヘシ
但輕症ト雖トモ附添人ヲ要スルトキハ一人ニ限リ附添ハシムルコトヲ得

其附添人ハ院長ノ許可ヲ受ケ許可証ヲ携帶スヘシ

第十五條 在院患者又ハ附添人ヲ來訪スルヲ得ヘキ時間ハ午後一時ヨリ全五時
迄トス

但患者危篤及差置キ難キ急用ノ場合ハ此限リニアラス

第十六條 來訪人ハ自己及患者ノ氏名ヲ受付係ニ申告シ病室通券ヲ受取り退出ノ際之レヲ返附スヘシ

第十七條 入院料ハ毎月十五日及月末ノ兩度ニ徴收シ退院者ニ係ルモノハ其際徴收ス

但入院退院ノ當日ハ時間ニ拘ハラズ一日ヲ以テ計算ス

第四章 學用患者

第十八條 學用患者ハ臨床講義用ノ爲メ收容スルモノトス

第十九條 學用患者ハ其病症ニ依リ入院通院ノ二類ニ分チ總テ院費ヲ以テ之レヲ治療ス

第二十條 學用患者ハ人員ニ制限アルヲ以テ定員ニ滿ルトキハ許可セサルコトアルヘシ

第二十一條 學用患者ニシテ生徒實習上裨益アルモノ死後解剖ヲ願フトキハ入院セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ第二號様式ノ受書ヲ差出サシムヘシ

第二十二條 學用患者ハ本院休日ノ外尙ホ左ノ期限内診察セス又入院ヲ許サス

七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

第二十三條 受診手續及藥劑請求手續ハ受附掛ノ指圖ニ依ルヘシ

第二十四條 通院患者ノ藥瓶ハ自辨セシム

第二十五條 本則第十一條第十三條(但書ヲ除ク)第十四條第十五條第十六條ハ本患者ニ適用ス

第五章

診察料并諸料金

第廿六條 診察料往診料入院料手術料藥價等ノ諸料金ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 診察料及往診料

普通診察料

管内人 初診 三十錢
管内人 全診 五十錢
管外人 每診 五十錢

特別診察料

管内人 初診 五十錢
管内人 每診 五十錢
管外人 每診 二十圓

一 診斷書料

一回 金參拾錢

一 体格検査料

一回 金五拾錢

一 乳母検査料

一回 金五拾錢

一 處方箋料

一回 金拾錢

一 往診料

職員 往診料 一里以內

一里以上 宿泊料 一泊ニ付

摘 要

部長 貳圓

一圓

醫師 壹圓

五拾錢

里數ハ陸路片路ヲ以テ計算シ里未滿ハ切捨トス

一 入院料

普通入院

壹等

一日金壹圓五拾錢

貳等

一日金七拾五錢

三十一年八月二十二日
告示一五二號ヲ以テ追
加更正本文通リ

特別入院	參等 一日金五拾錢 壹等 一日金四圓 貳等 一日金參圓
一手術料	一等 貳拾壹圓乃至貳拾五圓 二等 拾六圓乃至貳拾圓 三等 拾壹圓乃至拾五圓 四等 六圓乃至拾圓 五等 貳圓乃至五圓 六等 貳拾錢乃至壹圓 七等 貳錢乃至拾錢
一藥價	一 狂犬病ニ關スル試驗手數料 一回 七圓 甲 一劑金拾錢 乳劑丸藥散藥煎浸藥內用水藥座藥膠漿劑等 乙 全 金七錢 撒布藥塗布藥膏藥外用水藥頓服藥等 丙 全 金四錢 点耳藥点眼藥等 但特別高價ノ藥劑ヲ要スルトキハ此制限ニ拘ハラス特ニ相當ノ藥價ヲ徵收ス

第一號樣式 保証書

右ノ者今般貴院へ入院治療相願候ニ就テハ本人在院中全人身上ニ關スル事ハ拙者一切引請萬一入院料其他本人支辨シ難キ節ハ拙者ニ料ヲ負擔シ聊カ貴院へ御迷惑相懸ケ申間敷依テ保証書差出候也

住所 縣郡村番戶
姓名 年 齡
保証人 何 某印
縣立長崎病院御中

第二號樣式

受書

右私儀今般學用患者トシテ入院御許可相成候上ハ治療上ノ事ハ勿論御規則ニ關スル事項ハ一切相守リ申ヘク萬一死亡候條ハ局部解剖相成候トモ不苦候仍テ爲後日保証人兼身元引受人連署ヲ以テ御請仕候也

年月日

右 本人印

住所
最近親族保證人
兼身元引請人 印

●告示第二三七號

明治卅一年十二月廿三日

縣稅賦課規則中改正追加并夫役現品賦課規則本年通常縣會ニ於テ左之通議決セ

リ (縣稅賦課規則中改正追加ヲ略ス)

長崎縣夫役現品賦課規則

第一條 府縣制第七十三條ニ依リ或ハ部分ニ對シ特ニ増課スル夫役現品ハ其市町村内ニ於テ本縣稅ノ納稅義務アル者ニ之ヲ賦課ス

但恤救規則ニ依リ救助ヲ受ル者ニハ之ヲ賦課セス

第二條 夫役現品ハ市町村會又ハ聯合町村會ニ於テ各自ノ等級ヲ設ケ其賦課額議決スヘシ

第三條 夫役現品ハ市町村會又ハ聯合町村會ニ於テ其代價ヲ算出シ納付者ノ便宜ニ依リ現金ヲ以テ代納セシムルコトヲ得

●乙第一三九號

明治十四年十二月三日

郡區役所

本年甲第七十一號ヲ以テ及布達候官倉庫貸渡規則中更正第十五條揭載官ニ屬スル評價人ノ備出願ノ時々各郡區役所ニ於テ取定メ夫々評價セシメ書面ヲ做シ願書ニ屬シ可進達尤モ手當料ノ儀モ該金額ヲ揭ク全時請求可致儀ト可心得此旨

本年甲一七一號本年八月甲一一五號中へ記入

相達候事

●乙第三二號

明治十五年三月十六日

郡區役所

客年當廳乙第三百三十九號達官倉庫貸渡評價取扱方并今年甲第五百十五號及百七拾一號布達該規則中揭載候抵當證差出方左ノ通相達候條此旨相達候事

第一條

一 貸渡料金及建物代價官民評價符合セサルハ規則第十五條ノ通其高額ヲ以テ取定許可可致儀ニ付評價ノ當時其高額若シ官ノ評價ニ屬スルハ一應願人へ指示シ肯諾ノ上其旨副申願書進達スヘシ

但官民評價書ノ儀別紙甲印雛形ニ準シ書面爲差出郡區役所ニ於テハ該評價當否ヲ査定シ若シ不相當ト認候時ハ再評價取計其旨ヲモ副申スヘシ

第二條

一 前條指示ノ場合ニ於テ其額數願人思料ニ外レ借用ヲ欲セサルハ直ニ願書下戻シ其旨ヲ具シ評價人手當料下渡ノ儀申立ヘシ

第三條

一 抵當證ノ儀ハ別紙(地所ハ明治六年第十八號公布建物ハ明治八年第四百四十八號公布及明治十年內務省甲第六號布達ニ據ル)雛形ニ照準貸渡許可ノ指令到達ノ日ヨリ日數十日間ニ差出サセ實際當否檢査ノ上其旨届出該抵當證物品トモ郡區役所ニ於テ保管スヘシ

十五年乙一七一號ハ全年甲一一五號中へ記入

十五年十一月乙一五〇號ニテ第一條但書及甲印雛形追加

第四條

一 抵當物ハ凡雜形ニ示ス物品ヲ以目的トシ其物品及價額等不相當ト認ル
モノハ相當ニ更正セシムヘシ

第五條

一 抵當物ノ儀地所ハ地卷代價其他ハ凡時價ノ貳割引ヲ目途トシ調査スヘシ

甲印鑑形

官倉庫評價書

何郡何村字何

一官倉一棟

此建坪何程

此評價何程

此拜借料金一ケ年(又ハ一ケ月)何程

此敷地反別何程

此拜借料金一ケ年(又ハ一ケ月)何程

拜借料金合

一筆ノ地所ニ數棟ノ建物アルトキハ該建物ノ坪數
評價拜借料金ハ一棟限記載スル勿論敷地ノ儀建物
ニ應シ一棟限記載ニ不及一筆全部ノ反別拜借料金
共合計ニ記載スルモノトス

右之通候也

年月日

郡長宛

何村 何之誰印

人民ノ評價書
ハ宛名ニ不及

別紙

官倉庫拜借抵當證書

何村字番號

一官倉壹棟 一數棟ヲ借用スルキハ壹棟限記載評
價額ハ合計ヲモ記載スルモノトス

此評價額何程

此抵當

何郡何村字番號

田畑宅地
山林反別何程

地價何程

、、、、、

、、、、、

又ハ

何郡何村何番戶

建家壹棟

此建坪何程		又ハ	何々公債證書何百圓	何枚
內譯		何拾圓	何番號	一枚
又ハ		古銀何拾兩		
內譯		何兩	貳分金	何枚
何兩		壹分銀	何枚	
右ノ官舎		何年何月ヨリ何年何月迄拜借仕爲抵當書面ノ	(地所建物公債証書古金銀)差出置候就テハ借用中官舎庫貸渡規則第十九條但書及第二十條ノ所爲有之自辨セサル節ハ右抵當物雜賣ノ上辨償可仕候爲其證書差出置候也	
年號月日	何郡何町拜借人	何	誰	
	全保證人	何	誰	

十六年乙三八號ニテ附點ノ三字改正

十七年二月乙三七號ニテ本達但書追加

●乙第三〇號

縣令宛

明治十六年二月廿二日

郡區役所 戶長役所

郡區長及戶長等職務ニ係ル訴訟裁判直者トナリタル片其費用ハ曲者ヨリ償却セシメ該金ハ地方稅雜收入へ組入候義ト心得ヘシ此旨相達候事

●乙第一九六號

明治十六年十二月廿六日

郡區役所

地方稅經濟ニ係ル不用品賣却順序方法別紙ノ通相定候條不用品ト認定スル片ハ經伺ノ上處分候義ト可相心得此旨相達候事

但委任ニ係ルモノハ經伺ノ限ニアラズ

(明治十七年一月丙學第八號ヲ以テ嚴原支廳縣立學校へ達ス病院へハ達ナシ)

(別紙)

不用品賣却順序方法

第一條 地方稅經濟ニ係ル土地家屋其他物品ノ不用ニ屬スルモノ又ハ破壊ニ屬セシモノハ左ノ方法ニ據リ拂下ヲ爲スモノトス

第一項 入札法

第二項 見識法

第三項 特賣法

第二條 入札法ハ左ノ各項ニ據ルモノトス

第一項 入札ハ物品所在ノ地ニ於テ揭示場又ハ新聞紙ヲ以テ少クモ七日以

- 前ニ年月日時及入札場ヲ定メタル廣告ヲナスヘシ
- 第二項 入札望ノ者ハ廣告ニ指定シタル場所ニ就キ物件ヲ熟覽シ封紙ヲ以テ期限迄ニ差出スヘシ
- 第三項 入札開札後ハ違算誤記等ノ故ヲ以テ引換又ハ改正スルヲ許サス
- 第四項 入札ハ主任者二名以上臨席シ入札人ノ面前ニ於テ開封ス
- 第五項 入札ハ最高價ヲ以テ落札トス
- 第六項 入札代價同額ナルキハ其同額ノ入札人ヲシテ更ニ入札セシムヘシ但違キノ入札代價ヨリ低落スルヲ得ス
- 第七項 入札ハ三箇以上ニ非サレハ無効トス
- 第三條 見積法ハ左ノ各項ニ據リ三名以上ニ物品ノ評價ヲ書出サセ最高價ヲ以テ拂下クヘシ
 - 第一項 入札ノ望人ナキトキ
 - 第二項 見積代金壹圓以下ニシテ主任官吏二名以上入札ヲ要スル程ノ物品ニアラスト認定スルルル
- 第四條 特賣法ハ左各項ニ據リ特ニ拂下クルモノトス
 - 第一項 入札見積ノ望人ナキル
 - 第二項 物品ニ據リ主任官吏二名以上見積法ヲ施行シ難キモノト認定スルル
- 第五條 第一條第一項乃至第三項ニ據リ拂下テ受ケタルモノハ落札金ノ一割ヲ直チニ入金セシム尤日數七日以内ニ代價ヲ完納セシメタル上物品ヲ下渡

スモノトス若期限内完納セサレハ入金ヲ沒收シ更ニ入札ヲ爲サシムヘシ
 ●乙第一二〇號 明治十七年七月十四日 嚴原支廳 郡區役所 戶長役所

郡區役所及戶長役所經費出納ニ用ユル帳簿左ノ通相定候條明治十七年度ヨリ施行可致此旨相達候事

- 但十一年第乙二百二十號達ハ廢止ス
- 一金錢ノ出納ヲ爲スニハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ
 - 一 郡區役所ノ部
 - 一 現金受拂簿 別冊模本ノ通以下全シ
 - 該簿冊ハ本拂假拂ハ勿論返納繰替臨時寄託金等日々出納スル一切ノ現金錢ハ洩ナク員數及ヒ受拂ノ事由等ヲ詳記シ日毎ニ受拂ノ締高ヲ算定シ爲替方甲乙帳殘高ト照合スルモノトス
 - 一 經費勘定仕出基帳 別ニ月給旅費等ノ明細簿ヲ要ス
 - 該簿冊ハ冒頭ニ總括ヲ置キ次ニ各科目ヲ分別シ受取金ヲ元トシ本拂アル毎ニ仕拂ノ區ニ記載シテ常ニ殘金ヲ一目瞭然ナラシメ勘定帳仕組ノ基帳トス
 - 一 假拂口別簿
- 該簿冊ハ月給旅費ノ假渡或ハ他へ送付金ニシテ最初ヨリ本拂ノ手順ニ至ラサルモノ等ヲ登記シ其經費ニ係ルモノハ各科目ヲ分チ其他ハ假拂セシ先ヲ科目トナシ口別ケニ記載スルモノトス尤モ假拂ノ後數日ヲ經過スル

モ決算ニ到ラサルハ督促ヲ爲スノ元トスヘシ故ニ勘定完結ノ時ニ於テハ殘高アルナシ

一 繰換金口別簿

該簿冊ハ年度界ニシテ乙年度ノ支出ヲ要スル場合トナルモ未タ經費金受取未済ノ甲年度殘金ヲ以テ一時繰替乙年度費用ニ充ツノ類又ハ甲郡役所書記ニシテ乙郡役所書記へ轉任ノ節赴任旅費等繰替渡ス場合ニハ此帳簿ニ登記スルモノトス

一 臨時寄托金受拂簿

該簿冊ハ經費外ニシテ一時郡區役所ノ手ヲ經テ受拂ヲ爲スモノハ總テ此簿冊ニ登記スヘシ

一 戸長役所費受拂簿

該簿冊ハ冒頭ニ總括ヲ置キ次ニ各村戸長ノ役所ヲ分別シ其總括ニ於テハ縣廳ヨリ受取高ヲ元受トシ決算ノ節ハ仕拂ノ區ニ記入ス而シテ戸長役場ノ目ニ於テハ金員交付シタルハ渡高ノ區ニ記シ精算勘定帳到達査定済ノ節ハ決算高ニ記シ常ニ渡高決算高殘高ヲ一目瞭然ナラシメ勘定結了ヲ見ルノ元トス

一 郡區廳舍建築修繕費勘定仕出元帳

該簿冊ハ縣廳ヨリ受取高ヲ元トシ漸次仕拂ノ時々仕拂ノ區ニ記入シ而シテ勘定仕出ノ元帳トス

一 備荒儲蓄救助金受拂勘定仕出元帳

該簿冊ハ冒頭ニ總括ヲ置キ縣廳ヨリ受取高ヲ元トシ戸長役所へ交付シタル時ハ此總括ノ坐ニ記帳セス(假拂金口別簿ニノミ記入)而シテ戸長役所ヨリ決算差出シタル時仕拂ノ區ニ記入ス又内譯科目ノ坐ニ於テハ戸長役所へ交付シタルハ渡高ノ區ニ記入シ精算帳差出タル時決算高ノ區ニ記入シ勘定仕組ノ元トス

一 浦役場及難破船諸費勘定仕出元帳
此簿冊ハ前項ノ手續ニ全シ

一 計算表
該表ハ日々之ヲ製シ現金ニ在テハ現金受拂簿ノ殘高ヲ掲ケ假出繰替ハ該帳簿ノ總殘高ヲ掲ケ書記月給以下ノ科目モ總テ殘高ノ金員ヲ掲ケ但戸長役所費備荒儲蓄救助費浦役場費等ハ總括ノ殘高ヲ掲ケ左右兩區金額ノ總高ヲ對照シ誤謬ナキヲ証シ且ツ向來仕拂フヘキ殘金ヲ一目瞭然ナラシムルノ具トス

一 戸長役所ノ部
一 現金受拂簿
該簿ハ郡區役所ノ部ニ示シタル手續ノ通り
但毎日出納終レハ現金在高ト帳簿殘高トヲ照合スヘシ

一 役場費勘定仕出元帳
別ニ月給旅費明細簿ヲ要ス

一 該簿冊ノ手續ハ郡役所ノ部ニ示シタル通り

一 假拂金口別簿

該簿全上
 一 備荒儲蓄救助金受拂勘定仕出元帳
 該簿ハ冒頭ニ總括ヲ置キ郡役所ヨリ受取タル元受ノ區ニ記入シ決算高ノ區ニハ各内譯科目ノ決算額ヲ累計シタルモノヲ掲ク而シテ内譯科目ニ於テハ其科目ニ該當スル金額ヲ元受高ノ區ニ記シ各自へ渡方終レハ決算高ノ區ニ記入シ他日精算勘定ノ基礎トス
 一 浦役場及難破船諸費勘定仕出元帳
 此簿冊ハ各科目ヲ分別シ郡役所ヨリ受取タル元受高ニ記入シ仕拂濟ノ時決算高ニ記入ス
 一 計算表
 該表ハ日々之レヲ製シ各帳簿科目ノ殘高ヲ掲記シ左右兩區金額ノ緋高ヲ對照シ誤謬ナキヲ証ス且ツ向來仕拂フヘキ金額在高ヲ一目瞭然ナラシムルノ具トス
 一 金錢ヲ出納スルニハ先ツ主務ノ者傳票ヲ調製シ郡區長(戶長役所ニ於テハ傳票ヲ要セス)ノ檢印ヲ受クヘシ假令急遽ノ際些少ノ金員ト雖モ郡區長ノ檢印ナク出納スルヲ許サス而シテ其傳票ハ後來憑証トナルヘキモノニ付須ク分類編輯シ保存スヘシ
 一 傳票ヲ調製スルハ受取人ノ請求書或ハ受取証書ナキニ於テハ調製スルヲ許サス
 一 帳簿へ登記スルハ傳票ニ據ラサレハ記帳スルヲ許サス

年月日	受	事	理	拂	事	由	殘
七月一日	金五百三拾圓	半年七月分郡役所經費受入		金五拾錢	半紙對貳拾東買入代		
	金千六百圓	各村戶長役所肯分經費受入		金八圓三拾錢	書記何某旅費假渡		
				金三拾八錢	佐賀縣佐賀郡役所へ電信料		
				金四拾六錢	何野板壹個新刻代		
緋	高金貳千卅圓			金九圓六拾錢			金二千二百四十五錢
七月二日	金二千二百四十五錢	前日ヨリ越高					
				金三百六拾圓	何村戶長役所經費何某渡		
				金三圓四拾錢	何某旅費假渡		
				金貳圓	西ノ内紙四帖買入代何某渡		

明治何年度現金受拂簿
 何郡(區)役所

全	高	金貳千百廿圓	燒印壹佰新調	金千七百五十四圓
七月三日	高	金三拾五錢五厘	代	金千七百五十四圓
全	金拾圓	前日ヨリ越高		十五錢五厘
全	金三圓	共進會出品代 何某へ可渡分 縣廳ヨリ受 苗木種子代縣 廳へ送附スへ キ分何某ヨリ受		
全	金拾五圓	書記何某月給		
全	金拾五圓	假渡		
高	金千七百五十四圓			十五錢五厘

明治何年度經費勘定仕出基帳
何郡(區)役所

年月日	元受高仕拂高	殘高	事由
十七年六月廿五日	金貳千圓	金拾圓五拾錢	旅費
全	金千九百八拾九圓五拾錢		
全	金貳百貳拾圓		書記月給
全	金千七百六拾九圓五拾錢		
全	金千七百七拾九圓五拾錢		七月十七日拂書記月給ノ内戻入
全	金千貳百圓		
全	金千貳百圓		
十七年六月廿五日	金千貳百圓		縣廳ヨリ受取

俸給

郡(區)書記月給

總括

年月日	假出高	決算高	殘高	事由
十七年七月廿五日	金拾圓五拾錢			書記何某旅費假渡
全 八月三日		金八圓五拾錢	金拾圓五拾錢	書記何某旅費決算
全		金貳圓		全上精算過剩返納
全			○	
全				
全				

以下費目毎ニ掲ク

繰換金口別簿

何郡(區)役所

繰換先キヲ題號トス

年月日	繰換高	戻入高	殘高	事由
十七年七月五日	金五百圓			十七年度經費御下渡未済ニ付繰替
全 七月十日		金五百圓		經費御下渡ニ付戻入
全			○	
全				
全				

臨時寄託金受拂簿

何郡(區)役所

年月日	元受高	仕拂高	殘高	事由
何年何月何日	金拾圓			共進會出品代縣廳ヨリ受何村何某渡ノ分
全	金三圓			苗木並種子物代何村何某上納ノ分勸業課へ送附スヘキ分
全			金拾三圓	

何年何月何日	金拾圓	共進會出品代何某へ渡
全	金三圓	濟
明治何年度戸長役所費受拂簿 何郡役所		
總括		
年月日	元受高仕拂高	殘高
何年何月何日	金千圓	高
七月ヨリ九月マテ各役所經費受取		

何年何月何日	金百圓	何村戸長役所費渡
全	金二百圓	何村全上
全	金二百圓	何村全上
全	金五百圓	何村全上
何村戸長役所		
年月日	渡高	決算高
何年何月何日	金百圓	殘高
全	金八十圓	高
全	金二十圓	事
何年何月何日	金百二十圓	由
七月ヨリ九月マテ經費 第一期決算高 第二期經費		

		何村戸長役所		
年月日	元受高仕拂高残高事	年月日	渡高決算高残高事	由
		何年何月何日	金二百圓	第一期經費
		全	金二百圓	
		何年何月何日	金二百圓	第一期決算高
<p style="text-align: center;">明治何年度郡區區廳令勘定仕出元帳 建築修繕費 何郡(區)役所</p>				
年月日	元受高仕拂高残高事	建築費		
由				

		修繕費		
年月日	元受高仕拂高残高事	年月日	渡高決算高残高事	由
何年何月何日	金六圓六拾錢	何年何月何日	金二百圓	第一期分受取
何年何月何日	金拾圓六拾錢	何年何月何日	金二百圓	第二期分受取
全	金拾七圓廿錢	全	金五百圓	
		全	金拾五圓	何々
		全	金三百圓	何々
		全	金三拾五圓	何々
		全	金百五拾圓	何々
		何年何月何日	金千圓	縣廳ヨリ受取
由				

						何年何月何日		金三圓貳拾錢	何處修繕何々		
						全		金拾四圓			
備荒儲蓄 何年度 助金受拂勘定仕出元帳 何郡(區)役所						年月日		元受高	仕拂高	殘高	事由
						何年何月何日		金百圓			縣廳ヨリ受取
						何年何月何日		金五拾圓	何村何災救助		
						全		金五拾圓			
						何年何月何日		金五拾圓			
						全		金五拾圓			
總括						年月日		元受高	仕拂高	殘高	事由
						何年何月何日		金百圓			縣廳ヨリ受取
						何年何月何日		金五拾圓	何村何災救助		
						全		金五拾圓			
						何年何月何日		金五拾圓			
						全		金五拾圓			

						何年何月何日		金五百圓	何村火災ニ付渡				
						何年何月何日		金四拾五圓			何村何月何日火災何某 外何人分		
火災救助 食料						何年何月何日		金五圓	全上何某外何人分				
						全		金五圓					
小屋掛料						年月日							
						何年何月何日							
						年月日		高決算高	殘高	事由	由		
						何年何月何日							
						年月日		高決算高	殘高	事由	由		
						何年何月何日							

<p>昭何年度浦役場及難破船諸費勘定仕出元帳 何郡(區)役所</p>				總括			
				年月日	元	受高	仕拂高
何年何月何日	金拾圓						
全			金五圓			縣廳ヨリ受取	
全				金五圓		何々	

<p>浦役場費 浦役人手當 (諸雇給備品消耗品 郵便稅電信料雜費)</p>				難破船諸費			
				年月日	波高	仕拂高	殘高
何年何月何日	金拾圓				縣廳ヨリ受取ノ内 浦役人何某日給何日分		
全			金拾圓				
全				〇			

<p>諸雇給 (患者費備品消耗品 郵便稅電信料雜費)</p>				難破船諸費			
				年月日	元	受高	仕拂高
何年何月何日	金拾圓						
全							
全							

何年何月何日	同	締	何月何日	全	全	全	全	締	何月何日	何年何月何日	年月日	事由
金三百三拾圓	金三百三拾圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金三百三拾圓	受	第何期經費郡役所ヨリ受取
金三百三拾圓	金三百三拾圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金三百三拾圓	事	戶長并筆生何月分月給
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	何某旅費
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	事	何某旅費
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	事	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	事	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	事	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	事	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	事	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	事	宿直賄料
金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	金二百九拾六圓	前日ノ越高	金二百九拾六圓	拂	宿直賄料

明治何年度現金受拂簿
何郡何村戸長役所

明治何年何月何日 計算表

科目	金	員	科目	金	員
現金	壹、九七五〇〇	〇	借入金	貳、三五〇〇〇	〇
預出	貳三〇〇〇	〇	旅費	壹、〇〇〇	〇
操換	五〇〇〇	〇	何々	〇	〇
			備品	貳〇〇〇	〇
			消耗品	貳五〇〇	〇
			何々	〇	〇
			郡區廳令建築修繕費	壹〇〇〇	〇
			浦役協費	五〇〇	〇
			戸長役協費	貳、三〇〇	〇
			備荒儲蓄救助	壹〇〇	〇
			總高	貳、貳壹〇〇〇	〇
			總高	貳、貳壹〇〇〇	〇

全	金五拾圓	備荒儲蓄救助 金受取							
全		金四拾圓	何村火災救助						
全	高金三百卅四圓	金四拾圓							
何月何日	金二百九拾四圓	前日ノ越高							
明治何年度役所費勘定仕出基帳 何郡何村戸長役所									
總括									

年月日	元受高	仕拂高	殘高	事由
何年何月何日	金三百三拾圓		金三百三拾圓	何月ヨリ何月迄經費郡役所ヨリ受取
何年何月何日		金拾八圓		戸長月給拂
全		金拾六圓		筆生月給拂
全		金拾圓	金二百九拾六圓	旅費へ拂
全		金二圓五拾錢		賄料拂
全	金五拾錢		金二百八拾四圓	何月何日戸長月給拂ノ分支給違ニ付戻入
全				
俸給 戸長月給				

筆生月給			
年月日	元	受高	仕拂高
何年何月何日	金八拾圓		金拾圓
全			金八圓
何年何月何日			金八拾貳圓
全			金八拾圓
何年何月何日			金六圓
全			金八拾圓
何年何月何日			金五圓
全			金五圓
何年何月何日			金五圓
全			金五圓

年月日	元	受高	仕拂高	殘高	事由
何年何月何日	金百圓				郡役所ヨリ受取何月ヨリ何月迄經費
全				金百圓	
何年何月何日					戸長何某何月分月給
全					戸長何某全上
何年何月何日					郡役所ヨリ受取何月ヨリ何月迄經費
全					何某何月分月給
何年何月何日					何某全上
全					何某全上

雜給 旅費			
年月日	元	受高	仕拂高
何年何月何日	金百五拾圓		
全			金八圓
何年何月何日			金貳圓
全			金百四拾圓
何年何月何日	金五拾錢		
全			金百四拾圓五拾錢

年月日	元	受高	仕拂高	殘高	事由
何年何月何日	金百五拾圓				郡役所ヨリ受取何月ヨリ何月迄經費
全				金六拾四圓	
何年何月何日					戸長何某何處出張旅費并旅行何日滞在何日分
全					華生何某巡回何日分滞在何日分
何年何月何日	金五拾錢				何月何日戸長何某旅費支給違ニ付戻入
全					

宿直賄料

年月日	假出高	決算高	殘高	事由
何年何月何日	金七圓			郡役所ヨリ受取何月ヨリ何月迄經費
全			金七圓	
何年何月何日		金貳圓拾錢		何月分宿直賄料延人員何日一宿何程
全		金四拾錢		戶長何某事務繁劇ニ付夜八時過退勤并當料何度分
全			金四圓五拾錢	

明治何年度役所費假拂金口別簿
何郡何村戶長役所

俸給

年月日	假拂高	決算高	殘高	事由
何年何月何日	金拾圓			戶長何某何處出張ニ付何月分月給假渡
全			金拾圓	
何年何月何日		金拾圓		戶長何某月給何月何日假渡ノ分決算
全				
何年何月何日	金八圓			戶長何某何處出張旅費假渡
同	金四圓			筆生何某巡回旅費假渡
同			金拾貳圓	
何年何月何日		金八圓		戶長何某旅費決算

雜給

●乙第一四五號

明治十七年八月十九日

嚴原支廳 郡區役所 戶長役所

明治十五年當廳乙第六十七號達左之通改正候條此旨相違候事

刑事ニ付原被告人ノ請求ニテ郡區長書記及戶長筆生等職務上証人トシテ裁判所ノ喚起ニカ、リ出頭候旅費ハ各所定額内ヨリ支辨スヘシ其旅費日當ハ治罪法ニ依リ裁判所へ請求スルヲ得ルト雖、モ被告事件無罪又ハ免訴トナラタル時ハ請求セサル義ト心得ヘシ

但請求シタル旅費日當ハ雜收入トシテ翌月十日限リ當廳へ納付スヘシ

●丙庶第一三二六號

明治十七年十二月十五日

郡區役所

地方稅雜收入豫算書式自今左ノ通相定候條此旨相違候事

明治何年度地方稅雜收入豫算書

名	稱	員數	收入金	說	明
テーブル又ハ椅子等	何	個			
石炭油空箱ノ類					
地券用紙ノ反故紙屑					
何々					
合計金					

(廳中不用ニ屬スルモノ并下掃除等賣却見積代都テ記入スヘシ)
右ハ何年度雜收入豫算書面之通上申候也

明治何年月日

郡區長姓名

縣令宛

明治十八年三月十一日

嚴原支廳郡區役所

●丙庶第二六七號

郡區役所又ハ戶長役所經費流用伺出ル時ハ其事實ヲ詳具シ計算表(細科日限)ヲ添付スヘシ此旨相違候事

●丙庶第一三九六號

明治十八年十二月九日

郡區長宛

郡區吏員轉免事務受渡濟ノ後其事務ニ付召喚ヲ要スル場合ニ於テ費用ニ懸ル分ハ事由ヲ具シ伺出ツヘキ義ト可心得比旨訓示候也

●達第七號

明治廿一年一月十八日

對馬島廳 郡區役所

地方稅支辨ニ係ル諸勘定帳ニ附屬セル明細表來ル廿一年度ヨリ廢止候條左記調理順序ニ據リ証書添付スヘシ

証書調理順序

一 証書ハ該年度豫算ノ每細科目ニ區分類編シ附スルニ表紙ヲ以テシ之ニ金員ノ合計其所屬ノ小科目及証書ノ枚數ヲ掲記スヘシ但一ノ証書ニシテ例ヘハ甲乙科目ノ種類ヲ混交記載セシモノアルカ如キハ乙科目ノ分ハ金員ノ肩ニ其旨ヲ

朱記シ該証書ハ之ヲ甲科目ニ編入シ乙科目ニ於テハ其所屬金額及原証書ノ番號ヲ朱記セル寫書ヲ編入スヘシ

一証書ハ正當受取人ハ領收証書ニ限ル但事實証書ヲ得カタキ場合若クハ他ノ金額ヲ併セ仕拂ヲ要スルモノト如キハ其事由ヲ詳記セル仕拂証書ヲ以テ代用スルヲ得

一假拂ニ係ル不足金ノ領收証書若クハ過上金ノ返納証書ハ最前ノ証書ニ深層調理スヘシ但本拂ノ違算ニ係ルモ亦之ニ準ス

一証書ハ其書面上端ニ於テ各順序ヲ逐ヒ該壹ケ年度ヲ通シタル番號ヲ朱記シ其最尾ニハ最尾ノ旨ヲ記載スヘシ

一証書ハ領收者ヲシテ其物件事由旅費日誌等都テ金額ノ算出ニ係ルモノヲ詳記調成セシムヘシ但其物件事由日誌等ハ別紙ヲ以テ領收証書ニ添付セシムルモ妨ケナシ

●達第四〇號

明治廿一年三月十五日

對馬島廳 郡區役所

備荒儲蓄支出ニ係ル領收證書二十一年度以降本年達第七號證書調理順序ニ據リ類編シ仕譯書ニ添付進達スヘシ

●訓令第一六號

明治廿二年十一月廿九日

郡市長へ訓令

地方税巨數割ニ付加スル市町村税ニシテ市町村歲出入豫算議決ヲ要スルマデ地方税戸數割ノ課額未定ナルトキハ先ツ其賦課ノ總額ヲ議決シ各自賦課額ハ地方

稅決定ノ上其割合ヲ以テスルコトニ豫メ議定セシメ置クヲ得ヘシ

●達甲第二三五號

明治廿二年十二月廿七日

對馬島廳 郡役所 市役所

地方稅營業許可認可書并鑑札ノ義ハ此迄毎年度ノ始メニ於テ更ニ届出サセ許可認可若クハ鑑札下付致來候處來ル二十三年度ヨリ引續キ營業ノ者ニ限リ之ヲ繼續スルヲ得可シ

但各自稅額ハ町村會決議ノ上町村長又ハ戶長ノ報告ニ依リ徵收整理スヘシ

●訓令第二五號

明治廿三年二月十日

各郡長宛

地方稅及ヒ公儲金等ノ收入ハ町村制第六拾九條ニヨリ町村長自ラ取扱フヘキハ勿論ナレバ設ヘ内部ニ於テ便宜收入役ヲシテ取扱サシムルモ外部ニ對シテハ町村長ノ名義ヲ以テスヘキ旨管内町村長へ注意セラルヘシ

右訓令ス

●訓令第三三號

明治廿三年二月廿一日

第一部 警察本部

地方稅支辨ニ係ル物品ヲ諸方ヨリ購入スルニ際シ其物品代ト之ニ要スル運搬費トハ各其費目ニ精算整理スヘキ筈之處間々新聞雜誌等ノ郵稅ニ比シ其物品代ト運搬費ト明瞭ナルモノヲ以テ物品代ト看做シ支辨スル趣有之區々ノ整理不都合ニ自今精算未済ノ分ヨリ物品其物ニ對シ持届ケマテニテ何程ト約束スルハ其運搬ノ費用瞭然タラザルヲ以テ物品代ト看ルノ外ナキモ既ニ物品代ト其運搬費

ト各別明瞭ナル上ハ相當費目ニ編入整理スベシ
右訓令ス

訓令第四二號

明治廿三年三月五日

第區選舉長郡長宛

衆議院議員選舉費之義ニ付容年十月達甲第百七拾九號ヲ以テ相達置候投票用紙ハ常應ニ於テ製造配付可致候條投票函及名簿調製費其他地方稅支出ニ係ルモノハ一時其應ニ於テ立替役夫々各費明細書ヲ作り正當領收書ヲ添ヘ實費請求スヘシ

但投票函製造費ハ壹個平均壹圓拾四錢ヲ超過セシメス其他ノ費用モ成ルヘク當マサル様注意セラルヘシ

右訓令ス

達甲第六九號

明治廿三年三月卅一日

對馬島嶼 郡役所 市役所 町村役場 戶長役所

地方稅賦課ニ係ル市町村會議案様式別紙ノ通相定ム

明治何年度地方稅賦課額議案

某町村

一金何程

前期 戶數 割

外金何程 乘出過

但(四月十月)一日現在戶數何程一戶ニ付何程

內譯

等	級	課	額	戶	數	稅	金
合	計			何	程	何	程
<p>一金何程 內譯 營業稅 內何程乘出過</p> <p>金何程 內譯 商業稅</p> <p>外金何程 乘出過</p> <p>但四月一日現在人員何程一人ニ付何程</p>							
科	目	年	稅	人	員	稅	金
何	商						
何	行						
何	商						

金何程			工業稅		
外金何程 乗出過			内		
但四月一日現在人員何程一人ニ付何程					
合計		何程何程			
科目	年稅額	人員稅金			
何職					
何工					
合計		何程何程			

一金何程 乗出過 漁業稅

外金何程 乗出過

但四月一日現在個數何程一個ニ付何程

外金何程 乗出過			漁業稅		
但四月一日現在個數何程一個ニ付何程			内		
合計		何程何程			
科目	年稅額	個數稅金			
何網					

廿三年九月達甲一五九
 號ニテ第一條中并廿七
 第二條第三條中并廿七
 年十二月訓令一二六號
 ヲ以テ改正本文ノ通り

雜種稅中料理屋外四種モ前ニ倣フ

說明 議案調査ノ要領ヲ掲ク

●達甲第一〇九號 明治廿三年五月十七日 對馬島廳 郡役所

地方稅支辨ニ係ル俸給支給規則		地方稅支辨ニ係ル俸給支給規則	
第一條	年俸ハ之ヲ十二分ニ毎月二十一日之ヲ支給ス月俸ハ其月二十一日支給ス	第一條	年俸ハ之ヲ十二分ニ毎月二十一日之ヲ支給ス月俸ハ其月二十一日支給ス
第二條	但休日ニ當ルトキハ順延トス	第二條	但休日ニ當ルトキハ順延トス
第三條	廢職退職及ヒ死亡ノトキハ年俸月俸ハ當月分ノ全額ヲ支給ス	第三條	廢職退職及ヒ死亡ノトキハ年俸月俸ハ當月分ノ全額ヲ支給ス

第四條 非職廢職退職ノ者事務引繼廢務調理ノ爲メ特ニ命テ受ケ公務ニ從事スル者翌月以降ニ涉ルトキハ其間尙從前ノ俸給日割ヲ以テ支給スルモノトス但廢務調理結了マテ數ヶ月ヲ要スルモノハ第一條ノ支給定日ニヨル

第五條 轉職シタル者ハ第一條ノ支給ニ拘ハラス日割計算ヲ以テ發令ノ當日マテニ係ル俸給ヲ支給ス

第六條 病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ踰ユルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷災ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹ルモノ及ヒ優恩ニ由リ賜暇休養スルモノハ此限ニアラス

第七條 前條ノ外私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ルモノハ俸給ノ半額ヲ減ス

第八條 第六條ノ場合ト第七條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其日數ハ前後ヲ通算ス但第七條ノ期限ヲ過キ已ニ減俸ノ者第六條ニ移ルモ本俸ニ復セス

第九條 賜暇忌引ノ場合ト第六條若クハ第七條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇忌引ノ日數ヲ扣除ス第六條若クハ第七條ノ期限ヲ過キ既ニ減俸ノモノ賜暇忌引ニ連續シ其賜暇忌引後直ニ上所スルモノハ該賜暇忌引ノ日ヨリ本俸ヲ支給スルモノトス但賜暇忌引ヲ過キ尙上所セサルトキハ總テ減俸ノ額ヲ支給ス

第十條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル但年俸ハ之ヲ十二分シ其月額ヲ算出シテ計算ス俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

第十一條 日給ハ翌月一日ニ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰上ケトス

第十二條 日給ハ祝祭日日照等自己ノ便宜ニアラスシテ休務スル場合ハ之ヲ支給ス

第十三條 轉職若クハ非職廢職退職ノトキ俸給ノ過渡アルトキハ前所ニ於テ其際之ヲ追徴スヘシ俸給支給定日後他ヨリ轉シ來リタルトキハ後所ニ於テ其殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第十四條 兼職ノ増給ハ其兼所ヨリ支給スルモノトス

● 達甲第一二六號 明治廿三年六月廿四日

對馬島廳 郡役所 警察署 警察分署 監獄署

地方稅並ニ備荒儲蓄金經濟ニ關スル會計檢査規則別紙ノ通改定ス

地方稅並ニ備荒儲蓄金經濟ニ關スル會計檢査規則

第一條 地方稅及備荒儲蓄金經濟ニ係ル金穀財產物品會計ノ實況ヲ檢査ス

第二條 會計檢査ノ要目左ノ如シ

- 一 金穀出納ノ當否
- 一 諸帳簿及計算表調理ノ當否
- 一 抵當品ノ當否
- 一 領收證書ノ正否及保存ノ如何
- 一 現金保護ノ方法
- 一 財產物品保管ノ當否
- 一 財產物品ノ購買及不用品拂下方法ノ當否
- 一 諸契約ノ當否

右ノ外會計上要用ト見認ムル書類ハ一切之ヲ點檢ス

第三條 檢査員ハ第一部議事課々員(判任官)ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 諸會計ヲ檢査スルニ當リ其事理明晰ナラサルカ又ハ計算上確當ナラサルモノハ推問ノ上其事全ク規則ニ違反スルモノハ派出檢査員ノ名ヲ以テ該所長ニ申報シ其旨知事ニ具申スヘキモノトス

第五條 檢査上非違不正ノ行爲アリト認ムルハ直ニ其顛末ヲ知事ニ具狀シ處分ヲ請フヘシ

第六條 賦課徵收金ノ納期ヲ過キタルモノ又ハ上納金ノ其上納期ヲ過キタルモノハ之ヲ督責其理由ヲ推究シ速ニ送納ノ手續ヲナサシムヘシ

第七條 檢査ノ後正當ナリト認ムルトキハ帳簿其他ニ檢査ノ証トシテ其年月日ヲ記シ署名捺印スヘシ

第八條 檢査員ハ其檢査ヲ了セハ第二條各項目ニ由リ其事蹟ヲ詳具シ知事ニ復命スヘキモノトス

●訓示第二號 明治廿四年一月廿七日 島司郡市長宛

地方税ノ内營業稅雜種稅戶數割各納稅者ノ負擔額ハ明治十四年第六號布告ニ據リ市町村會ノ議決ニ付シ施行シ來リ候處其負擔額不權衡ノ故ヲ以テ更正ノ義會テ訴願セシ向有之然ニ右等議決ニ對シ訴願ヲ許サレサルヲ以テ却下セシモ客年法律第五百五條ニテ右等ノ訴願ヲ許サレタルヲ以テ將來納稅額負擔ノ當否ニ對シ訴願セル向可有之殊ニ戶數割ノ如キハ貧富ニ據リ稅額ノ等級ヲ立ツヘキ等ニ有之且營業稅雜種稅分當額等ニ於ケルモ其議決不權衡ノ發見スルニ於テハ訴願

廿五年九月達甲一一三
號及三一年七月訓令七
八號ニテ圈點ノ通更正
追加

呈出セルハ論ヲ俟タサル次第ニ有之此場合ニ際セハ輕カラサル手數ヲ要スル而巳ナラス議決ノ更正ヲ要スル等ノ不幸ニ際會スル哉モ難計ニ付右等不都合ナキ樣篤ク注意セラルヘシ

右訓示ス

●達甲第三〇號 明治廿四年三月三十日 島司郡市長宛

府縣稅徵收法第壹條ニ依リ市町村へ交付スヘキ徵收費用請求手續左ノ通相定ム

一 市町村交付金ハ毎年四月十月ノ兩季ニ交付スヘシ

一 町村長戶長ハ該年度每季徵收シタル稅金ヲ計算シ別紙樣式ニ依リ請求書ヲ關製シ縣出納吏ニ差出スヘシ

但長崎市ハ直ニ縣廳ニ差出スヘシ

一 島司郡長ハ戶長町村長ヨリ差出ス所ノ請求書ヲ調査シ檢印ハ上(前期ハ十月十五日后期ハ四月十五日)迄ニ縣廳ニ進達スヘシ

一 市長ハ前項ノ期日迄ニ縣廳ニ進達スヘシ

別紙(用紙半紙野紙)

請求書

○出納吏檢印 地方稅交付金

一金何程 但何年度前(后)半期地方稅金何程ノ百分ノ四

右請求候也

廿八年五月訓令第三二號及三十年七月訓令第四七號ニテ表中削除更正本表通

年月日

知事宛

市長氏名長
町村長印

達甲第四四號

明治廿四年四月廿四日

島瀨 郡役所 市役所

地方稅收入豫算表様式別紙之通改正候條每年七月十日限リ調製差出スヘシ

某郡(市)

營業稅

商業及工業

市町村名	人		業	工	員
	商	業			
計					

雜種稅

料理屋外四種

(月稅科目ハ延人員トス)

市町村名	人				員
	料理屋	飲食店	湯屋	理髮人	
計	(何等地)	(全上)	(全上)	(全上)	

遊藝師匠外四種

(月稅科目ハ延人員トス)

市町村名	人				員
	遊藝師匠	遊藝稼相	撲俳	伎	
計					(何等地) (全年稅)

市町村名	業名	場所	市場		定稅額又ハ上リ金高	人名

計	市町村名		船數	
	西洋形	日本形	噸數	并石數
			五十石以上	六間
				五間
				四間
				三間以下

計	市町村名		車數	
	二正立馬車	一正立馬車	荷積馬車	全牛車
				二人乘
				一人乘
				大七八車
				中小車

市町村名	水車數	
	搗	挽

計	市町村名		乘馬及屠畜	
	乘馬(借馬自用トス)	全上半額	屠	牛
				屠羊
				屠豕

市町村名	演劇外四種 (演劇外二種ハ延日數遊技場ハ延月數トス)	
	演劇	諸興行

市町村名	日數		又ハ		場所	
	遊覽所	遊技場	遊覽所	遊技場	遊覽所	遊技場

市町村名		頭數	又	ハ	金員
		勢美白長須	座頭長須	鯢鯨鱒等	流寄鯨(見込金高)
計					
鯉外三種					
市町村名		頭數	又	ハ	金員
		鯉	鮪建込(見込高)	河濱場外四種(全上)	網子要セザル海面漁場(全上)
計					
區畫漁場					
市町村名		鮪數	鮪其他	鮑	其他
計					

市町村名		鮪網代并大敷	(廢業中ノケ所ハ朱書トス)	
		鮪網代ケ所名	大敷網代ケ所名	
計				
諸網及器械釣船 (網ハ一帖船ハ一艘ヲ以テ一個トス)				
市町村名		諸網個數	器械釣船遊漁遊投網數	
			(遊漁) (遊投網)	
計				
採藻				
市町村名		區畫坪數	箇所數	收穫見込高
計				

特別課税			
温泉場外三種			
市町村名	員		數
	温泉場	運賃取牛馬	
	(何等)	(全上)	(全上)
計			(仲使)
			(助業者)
鴨網外二種			
市町村名	員		數
	鴨網	鴨ヲナ	
			雉子網
計			

珊瑚樹採外二種

貸坐敷娼妓			
市町村名	貸坐敷		娼妓
	等級	延戸數	
			延人員
計			

市町村名	人員	
	(見込高)	(人員)
		(上ノ高)
計		

備考

各表トモ員數ハ該年四月一日現在ニ依リ總テ數字ヲ以テ鮮明ニ記載スヘシ
 表中何等又ハ何等地トアルハ總テ前年度賦課法ニ據ルモノトス
 賣上高受負高等ハ總テ前年ノ金額ヲ掲クヘシ

●達甲第五二號 明治廿四年五月四日

島廳 郡役所 警察署
警察分署 監獄支署

地方稅支辨ニ屬スル筆墨料ノ義ハ代料又ハ現品支給共本年五月ヨリ之ヲ廢止ス
●達甲第二〇號 明治廿五年三月十四日

島廳 郡役所 市役所

國稅滯納處分法第十一條ニ據リ地方稅滯納處分ノ囑托ヲ受ケ其結果關係書類送付ノ際本年大藏省訓令第五號報告表ニ該當ノ事項悉皆取調添付スベシ
●達甲第五八號 明治廿五年五月十一日

島廳 郡役所 市役所

地方稅滯納處分ニ就キ國稅滯納處分法第十一條ニ依リ囑托ヲ受ケタル應衝ヨリ囑託屬ニ税金送附ニ係ル爲替手數料書留郵便稅ハ該徵收金ノ内ヨリ扣除シ囑託應ニ在テハ各其所屬ノ經費ヨリ右爲替料等ヲ支出シ徵收金額ニ充タシ以テ税金ニ收納スベシ

但明治廿五年(四月)本縣達甲第三十七號ハ廢止ス(國稅滯納處分法第十一條ニ依リ他府縣ヨリ地方稅滯納處分ノ囑托ヲ受ケ徵收シタル金額囑托應へ送付ニ要スル爲替料及遞送料ノ義自今其應經費ヲ以テ支辨シ其時々報告ノ件)
●達甲第五九號 明治廿五年五月十八日

島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場

國稅滯納處分法第十一條ニ依リ市町村稅徵收方ノ囑托ヲ他府縣ヨリ受ケタルト

キハ其徵收シタル税金ヨリ送付ニ要スル爲替手數料書留郵便稅等ヲ扣除シ其領收書ヲ添へ殘金ヲ回付スベシ
●達甲第一〇四號 明治廿六年十二月廿七日

島廳 郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校縣立病院

地方稅支辨ニ屬スル執務用品中左ニ記載ノ品目明治二十七年一月一日限り支給綿、及貸與ヲ廢止ス

ペン軸、檢印用印肉、卷紙、押紙、硯石、硯箱、インキ壺、字消護謨、簿記用海小刀、錐、鋏、糊壺、水入、文鎮、檢印用肉池、定木、尺度、机拂用ブラッシ、綴金及留針、烏口、コンパス、紙挾、火炭斗、

●訓令第六〇號 明治廿七年四月二十日

對馬島廳 郡役所 市役所

獸肉行商者ニ下付スヘキ地方稅營業鑑札ニハ其行商スル肉ノ種類ヲ明記スベシ
●訓令一第七五號 明治廿八年一月廿一日

郡長 宛

經費ヲ以テ新聞紙購求ノ義自今廢止候條此旨心得ラルヘシ
(警部長典獄ヘハ別ニ訓令アリ)

●訓令一第一一一號 明治廿八年二月十二日 (各郡長宛)
郡長職務上取扱ニ係ル現金ハ郡役所爲換方ニ預ケ入若クハ金庫ニ依託保管セシムヘキ筈ノ處往々其手續ヲ誤リ郡役所内ニアル金庫ニ藏置セル趣キ相聽ヘ不都

合候條爾後右等ノ義無之様篤ク注意セラルヘシ

右訓令ス

●訓令一第一七三號

明治三十年三月八日

島司郡市長

今般

大喪ニ際シ特ニ慈惠救濟ノ資ヲ補ハシムルノ思召ヲ以テ整理公債證書七千百圓
下賜相成候ニ就テハ深ク

聖旨ノ存スル所ヲ奉體シ永遠不朽ニ御趣旨ヲ貫徹スルコトヲ期ス依テ

恩賜金ハ慈惠救濟基金ノ名義ヲ以テ縣經濟中特別會計トシ左ノ方針ニ依リ増殖
支出スヘキニ付此旨心得ラルヘシ

恩賜金増殖ノ方法ニ就テハ更ニ指示スル事アルヘシ

右訓令ス

一基金ヨリ生スル利金ハ可成基金ニ加ヘ其増殖ヲ計ル事

一聖旨ノ優渥ナルニ感奮シ義金スルモノアルトキハ之ヲ恩賜ノ基金ニ加ヘ
其増殖ヲ計ル事

一本縣ニ於テ慈惠病院救濟院育兒院癲癩院感化院ノ類ヲ設立スルトキハ基
金ヨリ生スル利金ノ幾分若クハ全部ヲ支出スル事

一郡市町村立及私立ニ係ル前項ノ事業ニシテ其基礎確實ナリト認ムルトキ
ハ基金ヨリ生スル利金ノ幾分ヲ下附スル事

●訓令四第二六九號

明治三十年四月七日

對馬島廳 警察署

(嚴原、梅ヶ崎ヲ除ク)

對馬島廳 警察署
(嚴原、梅ヶ崎ヲ除ク)

明治三十年以降各警察署分署需用費中(連帶費支辨)半紙白紙外十五品別紙様式
ニ據リ受拂高及平均額取調毎月勘定帳一同當廳へ差出スヘシ

右訓令ス

明治何年何月中半紙白紙外十五品受拂高及平均額報告何警察分署

品目	使用人員前月迄本月		計	前月迄本月		計	差引	
	器具數	受入高		受入高	受入高		拂高	一人平均
半紙白紙								
全全界紙								
全半切界紙								
狀袋								
木炭								
蠟燭								
茶								
煎麥								
生麸								

石油															
膠															
寒天															
リスリン															
麻ヨマ															
摺付木															
ランプ芯															

右報告候也

年月日

(何警察署長)

官氏 名印

知事宛

備考

本表四月分ニ於テハ前年度ヨリ越高ヲ前月迄受高ノ欄ニ記載スヘシ
 使用人員ハ用紙類ハ警部巡查ノ総員ヲ掲ケ木炭乃至生炭ハ現ニ其署ニ在勤
 スル警部巡查小使水夫ノ數ヲ掲ケ石油ハランプノ數ヲ掲ケ尤モ芯ノ大小ヲ
 區分スヘシ
 但警選用ノ提燈ハ算入セス備考ニ其數ヲ記載シ置クヘシ

平均額ハ毎月拂高累計ノ數量ヲ使用人員又ハ器具數ニテ除シタルモノヲ掲
 クヘシ京議界紙ハ全番半切ノ區分ニヨリ半番界紙ニ編入シ半紙界紙狀袋ノ
 類ニシテ警察署ヨリ分署ヘ拂渡又ハ帳簿用トシテ使用シタルモノハ各拂ノ
 欄ヘ朱字内書シ平均額ハ之ヲ扣除シ算出スヘシ
 但内書ニ係ルモノハ分署渡帳簿用ヲ區分シ備考ニ記載スヘシ
 膠以下ハ使用人員及平均額ヲ記載ニ及ハス當月拂高例月ニ比シ著シク多量
 ナルキハ其事由ヲ備考ニ詳記スヘシ

訓令第二一號

明治三十年四月十四日

對馬島廳 郡役所 警察署 警察分署

監獄支署 縣立學校 縣立病院

地方稅經濟ニ屬スル物品取扱規定左ノ通相定ム

地方稅經濟ニ屬スル物品取扱規程

第一條 此規程ニ於テ物品ト稱スルハ地方稅經濟ニ屬スル器械備品消耗品(郵
 便切手ヲ除ク)藥物ヲ云フ但工業素品製造品在監人食餌等ハ各其規程ニ據ル
 第二條 物品ノ出納ハ總テ會計年度ニ從ヒ現ニ其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ所
 屬年度ヲ區分スヘシ

第三條 當該所長ハ物品ノ保管及其出納ヲ掌ラシムル爲メ物品取扱主任ヲ定ム
 ヘシ物品取扱主任ハ物品ノ保管及其出納ノ責ニ任シ當該所長ハ其監督ノ責ニ
 任スヘシ但シ警察署長ハ其所轄分署ノ物品保管及其出納ニ關シテモ監督ノ責
 任アルモノトス

三十二年一月訓令六號
ニテ本文圈点ノ通加除

第四條 物品ヲ左ノ如ク區分スヘシ

事務用備品 教授用備品 患者用備品 何々用備品 事務用消耗品

教授用消耗品 患者用消耗品 何々用消耗品 治療用器械 何々器械 藥物

第五條 物品出納整理ノ爲メ第一號乃至第九號様式ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ノ事實

ヲ登記スヘシ但シ巡查看守被服器具給與貸與品ニ係ル帳簿ハ各其規定ニ據ル

物品ノ消耗賣却亡失棄却生産ノ爲メノ消費及其他保管ヲ離ルルヲ出トシ買入

生産及其他保管ニ屬スルヲ納トス

第六條 物品取扱主任ハ當該所長ノ檢印シタル證憑アルニアラサレハ物品ヲ出

納スルコトヲ得ス

第七條 各自ニ專用スル物品ハ各自之ヲ保管シ所内若クハ其一部共用ニ係ル物

品ハ當該所長其保管者ヲ指定スヘシ

第八條 故意怠惰ニ依リ物品ヲ亡失毀損シタル者ハ其修理又ハ代品ノ辨償ヲ爲

スヘシ

物品ノ亡失毀損何人ノ所爲ニ出テタルコトヲ認知シ難キ場合ハ其保管者修理

又ハ代品辨償ノ責ニ任スヘシ但シ避クヘカラサル理由アルトキハ此限ニアラス

前二項ノ場合ハ其顛末ヲ詳記シタル手續書ヲ徵シ當該所長之レヲ處分スヘシ

第九條 物品ヲ購入セントスルハ廿四年五月本縣達甲第六十號地方稅經濟ニ

係ル物品購入規則ニ依リ物品購入簿ニ登記シ當該所長ノ檢印ヲ經テ購入ヲ決

定シ物品納濟ニ至ラハ直ニ出納簿ニ登記スヘシ

第十條 總テ消耗品藥物ハ該年度間ニ必要ノ數量ヲ買辦スヘキハ勿論ト雖トモ

若シ月末ニ殘餘ヲ生スルトキハ之ヲ翌月ニ又年度末ニ殘餘ヲ生スルトキハ翌
年度ニ繰入ルヘシ

第十一條 物品交付ヲ請求セントスルトキハ自ラ物品交付簿ニ記入シ所長ノ檢

印ヲ得テ交付ヲ受ケタルトキハ領收ノ證印ヲナスヘシ但出張巡回員等ニシテ

本文ノ手續ニ依リ難キ場合ハ適宜領收證書ヲ以テスルコトヲ得

第十二條 交付ヲ受ケタル物品ニシテ毀損又ハ不用ニ屬スルカ若クハ轉免其他

ノ事故ニ依リ返納スル者ハ事由ヲ詳記シタル返納書ヲ添ヘ速カニ還納スヘシ

但シ死亡ニ係ルトキハ當該所長便宜還納ノ手續ヲナスヘシ

轉免等ノ場合ニシテ後任者ニ於テ前任者使用ノ物品ヲ繼續使用セントスルト

キハ便宜授受ノ上双方連署ノ書面ヲ以テ當該所長ヘ申報シ前項ノ手續ヲ省畧

スルコトヲ得

前二項ノ場合ニシテ備品ニ係ルトキハ備品供給簿ヲ加除スヘシ

第十三條 還納物品ノ内毀損ニ係ルモノニシテ修繕ヲ加ヘ尙ホ使用ニ堪ユル見

込アルモノハ必要ニ隨ヒ修繕品書留簿ニ登記シ所長ノ檢印ヲ受ケ修繕ノ手續

ヲナスヘシ

第十四條 將來使用ノ見込ナキ物品及修繕ヲ加フルモ得失相償ハサル物品ハ十

六年十二月本縣乙第九十六號地方稅經濟ニ係ル不用品賣却順序ニ依リ物品

賣却簿ニ登記シ當該所長ノ檢印ヲ經テ賣却ヲ決定シ現品引渡濟ノ上ハ直ニ出

納簿ヨリ除却スヘシ

第十五條 不用及毀損物品ニシテ修繕ヲ加フルモ到底使用ニ堪ヘス且賣却ノ見

込ナキモノハ物品棄却簿ニ登記シ當該所長ノ檢印ヲ經テ之ヲ決定シ棄却ノ處分ヲ了シタルトキハ出納簿ヨリ除却スヘシ

第十六條 當該所長ハ物品取扱主任ニ於テ毎年度間ニ執行シタル物品出納ヲ檢査シ第十號乃至第十二號様式ノ出納報告書ヲ製シ翌年度五月三十一日迄ニ知事ニ差出スヘシ但對馬島嶼部下ニ於テハ島司ヲ警察分署ニ於テハ所屬警察署ヲ經由スヘシ

第十七條 物品取扱主任交替ヲナシタルトキハ前任者取扱ニ係ル出納簿最終記帳ノ次欄ニ授受ノ旨ヲ明記シ双方連署シテ當該所長ノ檢印ヲ受クヘシ

第十八條 物品交付簿物品購入簿物品棄却簿物品賣却簿並領收證書返納書其他出納ノ證憑トナルヘキ書類ハ一括シテ保存シ置クヘシ

前項ノ書類ハ必要アリト認ムルトキハ之カ提出ヲ命スル事アルヘシ

第十九條 物品ノ保管及其出納事務ニ付テハ隨時其實況ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

附則

第二十條 本令ハ明治三十年六月一日ヨリ施行ス

第二十一條 各所長ハ在來ノ物品ニ付キ綿密調査ヲ遂ク將來使用ノ見込ナキ不用又ハ毀損品ハ本令施行ノ前日マテニ盡ク賣却若クハ棄却ノ處分ヲ爲シ結了ノ上ハ其品目員數ヲ申報スヘシ

第二十二條 從來差出シ來リタル地方稅經濟ニ係ル本縣所有財產調備品ノ部ハ本令施行ノ日ヨリ差出スニ及ハス

地方稅經濟ニ屬スル物品購入手續第三條ノ臺帳ハ本令施行ノ日ヨリ調製スルニ及ハス

(第壹)

明治何年度備品出納簿

(用紙美濃)

品目	月日	摘要	受高	拂高	現在高	現在高内 供給	藏置
何	四月一日	前年度ヨリ越高	六二		六二	五〇	一二
全何日		何某ヨリ購入	三		六五	五〇	一五
全何日		何某ヨリ何々事由ニ ヨリ壹脚返納			六五	四九	一六
全何日		何々ノ事由ニヨリ棄 却		一	六四	四九	一五
全何日		何某へ何々ニヨリ壹 脚交付			六四	五〇	一四
全何日		何某ヨリ購入	五		六九	五〇	一九
何月何日		何々ニヨリ何某へ賣 却		二	六七	五〇	一七
卓		追次締高	七〇	三	六七	五〇	一七
子		前葉締高	七〇	三	六七	五〇	一七

備考

本帳簿ハ事務用備品、教授用備品、患者用備品、ハ各別冊ニ調製スヘシ
 使用者へ供給シ又ハ使用者ヨリ返納スル者ハ共ニ受拂ニ立テス現在高内譯
 ノ欄ノミヲ加除スヘシ
 全品目ト雖トモ種類ノ異ナルモノ(丸卓子掛二人掛卓子小形卓子ノ類)ハ別
 記スヘシ

ランブニ於ケルホヤ、各別ニ記載スヘシ
 本帳簿ハ各年度ヲ區別シ連年繼續費用スルコトヲ得治療用器械出納簿ハ本
 帳簿式ニ依リ調製スヘシ
 圖書、機械、標本等ノ如キ全品目ニシテ種類多數ニ渉ルモノハ其種類ヲ別
 シタル補助簿ヲ設ケ其合計ヲ以テ本帳簿ニ登記シ整理スヘシ
 (第貳號)

明治何年度消耗品出納高

(用紙美濃)

品目	月日		摘要	受高	拂高	現在高
	月	日				
木	四月	一日	前年度ヨリ越高	三五〇		三五〇
	全	何日	何某ヨリ購入	五〇〇		八五〇
	何月	何日	何々用トシテ何某へ渡		二〇〇	六五〇
			追次繰高	八五〇	二〇〇	六五〇

炭

前葉繰高

八五〇

二〇〇

六五〇

備考

本帳簿ハ事務用消耗品、教授用消耗品、患者用消耗品ハ各別冊ニ調製スヘシ
 本帳簿ハ毎年度調製スヘシ

(第參號)

明治何年度藥物出納簿

(用紙美濃)

品名	何月		何月		何月		受	拂	合計
	前日	越日	受	拂	受	拂			
前日	一	二							
越日	三	四							
	五	六							
	七	八							
	九	十							
	十一	十二							
	十三	十四							
	十五	十六							
	十七	十八							
	十九	二十							
	二十一	二十二							
	二十三	二十四							
	二十五	二十六							
	二十七	二十八							
	二十九	三十							
	三十一								
合計									

備考

本帳簿ハ毎年度調製スヘシ
本帳簿ハ通常藥、劇藥、毒藥等各別冊調製スルモ妨クナシ

(第四號)

備品供給簿

(用紙美濃)

需用者
官氏名

年月日	品目	數量	摘要	交付	
				年月日	品目
何月何日	何菓子	一	專用	何月何日	何椅子
何月何日	何々	、			一專用
何月何日					
何月何日					
何月何日					
何月何日					
何月何日					
何月何日					
何月何日					

備考

本帳簿ハ備品出納簿現在高供給ノ分ニ對スル内譯ニ付洩ナク使用者毎ニ別
記シ其員數ハ備品出納簿供給高ニ符合スヘキモノトス
本帳簿ハ連年繼續使用スルモノトス

(第五號)

明治何年度物品交付簿

(用紙美濃)

月日	所長印	品目	數量	摘要	需用者氏名	領收印
何月何日	印	半紙罫紙	一〇〇	何々用	氏名	印
、						
、						
、						
、						
、						
、						
、						
、						
、						

備考

本帳簿ハ毎年度限リ事務用備品、教授用備品、事務用消耗品、教授用消耗品、藥物各別冊調製スル物トス
患者用物品ニシテ代價ヲ徴收スルモノハ本様式ニ倣ヒ別冊調製スルモノトス但現金ト引換賣却スルモノハ別ニ帳簿ヲ設ケ交付月日品目數量人名ヲ明瞭ナラシムヘシ

(第六號)

明治何年度物品購入簿

(用紙美濃)

月日	所長印	品目	數量	價格	摘要	納人住所	納濟月日
何月何日	印	時計	一	三、〇〇〇	何々用トシ	何町村 某	何月何日
何月何日							
何月何日							
何月何日							
何月何日							
何月何日							
何月何日							
何月何日							
何月何日							
何月何日							

右之通相違無之候也

年月日

知事宛

官氏名印

訓令第六八號

明治三十年十月四日

島廳 郡役所 警察署 警察分署
監獄支署 縣立學校 縣立病院

縣稅經濟ニ屬スル物品購入規則左ノ通り相定ム

縣經濟ニ屬スル物品購入油則

第一條 物品ヲ購入スルハ左ノ方法ニ據ルモノトス

- 一 入札法
- 二 見就法
- 三 特撰法

第二條 入札法ハ左ノ各項ニ據ルモノトス

第一項 入札ニ付スル品目數量及日時ヲ詳記シ少クモ五日以前ニ新聞紙上又ハ其他ノ方法ヲ以テ廣告スヘシ

第二項 入札ニ付スル物品ノ價格ハ時價若クハ最近購入シタル價格ヲ標準トシテ豫定スヘシ

第三項 入札ニ付スル物品ハ其見本ヲ示シ又ハ入札者ヲシテ入札ト同時ニ見本ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第四項 豫定價格百圓以上ニ達スルモノハ入札保證金トシテ各自見積代金百分ノ五以上ヲ各入札者ヨリ納付セシムヘシ

第五項 入札保證金ハ開札ノ後落札セサルモノニハ直ニ之ヲ返附シ落札者ニハ物品納付ノ契約書ヲ差出サシメタル後之ヲ返附スルモノトス

第六項 入札ハ其品目數量及代價ヲ記入シ之ニ自己ノ氏名ヲ署シ封袋ヲ以テ嚴緘シ主任者面前ニ於テ入札セシム但一旦入札シタルモノハ變更スルコトヲ許サス

第七項 開札ハ主任者二名以上立會各所長ノ臨監ヲ受ケ入札人ノ面前ニ於テ開札シ最低價ノモノヲ落札者ト定ム其同價格ノモノアルトキハ抽籤法ニ依ルヘシ但入札人開札時刻ニ至リ出頭セサルトキハ主任者立會各所長ノ臨監ヲ受ケ開札スルコトヲ得

第八項 前項ノ落札人其落札ヲ辭シ又ハ豫定價格ヲ超過シタルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

第九項 落札人ニ物品納付ヲ命シタルトキハ期限ヲ定メ納付契約書ヲ差出サシマヘシ若シ期限内差出ササルトキハ其落札ハ無効トシ入札保證金ハ縣ノ所得トス但物品即納ノ場合ハ此限ニアラス

- 第三條 見競法ハ左ノ各項ニ據ルモノトス
 - 第一項 見競法ハ見競價格五拾圓以下ノ物ニ限リ之ヲ行フ
 - 第二項 見競法ハ二人以上ノ營業者ヨリ見本及積書ヲ徵シ其物品ノ善惡代價ノ高低ヲ見競ヘ買入ヲ爲スモノトス
 - 第三項 見競價格同一ナルトキハ抽籤ニ依ルベシ
- 第四條 特撰法ハ左ノ各項ニ據ルモノトス
 - 第一項 競争ニ付スルモノモ入札者ナキトキ又ハ再入札ヲ爲サシムルモノ仍ホ豫定價格ヲ超過スルトキ
 - 第二項 急造ノ場合ニ際シ競争ニ付スル暇ナキトキ
 - 第三項 一人又ハ一會社ノ專用スル物品ヲ買入ルヽトキ
 - 第四項 特別ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニヨリ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
 - 第五項 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ生産製作品ヲ直接ニ買入ルヽトキ
 - 第五條 入札法ニ依リ物品ノ納付ヲ命シタル時買入代金百圓以上ニ達スルモノハ落札代價百分ノ五ヲ身元保証金トシテ落札人ヨリ徵收スヘシ
 - 第六條 前身元保証金ハ納付物品完納済ノ上還付ス落札人其期限内完納セザルトキハ保証金ハ縣ノ所得トス

附則

第七條 明治二十四年五月達甲第六十號ハ之ヲ廢止ス
 ●訓令第六九號 明治三十年十月十一日

三十年十月訓令七四號
 卅一年七月全七七號三
 十二年一月全三號ヲ以
 テ本文圈點ノ通リ加除

對馬島廳 郡役所 警察署 警察分署
 監獄支署 縣立學校 縣立病院 檢査所

縣稅支辨ニ屬スル旅費規則左之通改正ス

縣稅支辨ニ屬スル旅費規則

- 第一條 旅費ハ第十八條ニ掲ケタル者公務ニ依リ旅行スルトキ之ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ別表ノ定ムル處ニ從ヒ最近便ノ路程ニヨリ之ヲ支給ス但シ特別ノ指定ヲ受ケタル者ハ此限リニアラス
- 第三條 瀛車旅行ニハ哩數ニ應シ瀛車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其他ノ旅行ハ陸路旅行トシ哩數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス但シ一日ノ行程陸路ハ十里瀛車ハ二百哩水路ハ百海里詰トス宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス尤モ第四條前項ノ場合ニ於テ縣ノ賄ヲ受ケサル者ハ食卓料トシテ宿泊料ノ額ヲ支給ス
- 第四條 縣用ノ舟車馬及各所等ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ旅行スルトキ又ハ特ニ舟車馬等ノ賃費ヲ支給スルトキハ本則ノ瀛車賃船及車馬賃ヲ支給セス
- 第五條 旅行ノ性質又ハ土地ノ情況ニヨリ定額ノ瀛車賃船賃及車馬賃ヲ以テ支給シ難キ場合ハ賃費ヲ以テ支給スルコトヲ得
- 第六條 瀛車賃船賃及車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス其一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス但シ一市町村内巡回ノ路程ハ算入セス
- 第七條 陸路六里未滿瀛車十哩未滿水路十里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス

但公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日常及宿泊料ヲ支給ス
 第八條 年度若クハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シ計算スルノ必要アル場合ニ於テ汽車旅行若クハ水路旅行ニシテ其區分判明ナラザルトキハ最近ノ到達地ニ着シタル日ヲ以テ其路程ヲ區分シテ計算ス
 第九條 赴任ノ場合ニハ舊任地又ハ舊在職地ヨリ新任地又ハ新在職地マテ汽車賃船賃及車馬賃ニ限リ定額ノ二倍ヲ支給ス
 第十條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅給費ヲ支ス
 第十一條 旅行中非職廢職退職廢官退官若クハ死亡ノ者ニハ前官職若クハ本官職相當ヲ以テ舊任地又ハ舊在職地マテノ旅費ヲ支給ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退官退職ノ者ハ此限リニアラス
 第十二條 前二條ノ場合ニ於テ日數ヲ計算方ハ汽車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但シ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其ノ路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス
 第十三條 新ニ採用スル爲メ召喚スルトキハ新官職相當ノ旅費ヲ支給ス
 第十四條 事務引繼廢務收調等ノ爲メ非職廢職退官退職者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官職若クハ本官職相當ノ旅費ヲ支給ス
 第十五條 旅行中川留船待及疾病等ノ爲メ公務外ノ日數ヲ要シタルトキハ川留船待ハ其地市町村長戸長若クハ休泊所ノ證明書疾病ハ醫師ノ診斷書ニ依リ増

日數ニ應シ日常及宿泊料ヲ支給ス
 第十六條 旅費ハ旅行ノ見積行程及日數ニ依リ概算前渡ヲ爲スコトヲ得概算前渡ヲ受ケタル者ハ歸廳後七日以内ニ精算ノ手續ヲ爲スヘシ其手續ヲ爲サザル間ハ再ヒ旅行ヲ命スルモ重テ概算前渡ヲ請フコトヲ得ス
 第十七條 第五條ノ實費支給ヲ請フ者ハ精算書ニ其領收證書ヲ添付スヘシ
 第十八條 旅費額ハ左ノ區分ニ依リテ支給ス但シ本縣内ノ一市町村内ニ宿泊スルコト十五日以上ニ及フトキハ手當トシテ甲號表一等及二等ニ該當スル者一ヶ月三十圓甲號表三等及四等ニ該當スルモノハ一ヶ月二十圓ノ日割ヲ以テ之ヲ支給シ定額ノ日常及宿泊料ヲ支給セズ
 尋常師範學校長 奏任待遇縣立學校校長長崎病院長次長並院長及調劑長
 右甲號表一等
 奏任待遇巡回教師 奏任待遇農事試驗所長 奏任待遇縣立學校教諭
 地方衛生會委員
 右甲號表二等
 郡書記 測候所員 縣立學校職員 巡回教師 長崎病院職員 驅黴院職員
 判任待遇監獄醫並教誨師、農事試驗所員
 右月俸拾貳圓以上ノ者ハ甲號表三等月俸拾貳圓未滿ノ者ハ甲號表四等
 巡查、看守、雇員、一般人員
 右甲號表五等

押丁、給仕、小使、諸職工、
右乙號表

附則

第二十條 本則ハ明治三十年十月十五日ヨリ施行ス
第二十一條 本則ノ外特ニ旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ支給スル等別段ノ
規定アルモノハ其規程ニ據ル

甲號表

等級	名稱	滿車賃一里	船賃一海里	車馬賃一里	宿泊料一夜	日當一當
一	等	四錢	五錢	拾五錢	壹圓拾錢	八拾錢
二	等	四錢	五錢	拾貳錢	壹圓	五拾錢
三	等	三錢	四錢	拾貳錢	七拾錢	四拾錢
四	等	三錢	四錢	拾貳錢	六拾錢	三拾錢
五	等	二錢	三錢	拾錢	五拾錢	三拾錢

乙號表

一	錢五厘	二	錢	六	錢	三	拾錢
流車賃	一哩	船賃	一海里	陸路雜費	一里	日當	一日
每二	每二	每二	每二	每二	每二	每二	每二

訓令第四七號

明治卅一年四月八日

對馬島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場

市町村傳染病豫防補助費規程左ノ通相定ム

市町村傳染病豫防補助規程

第一條 傳染病豫防法第二十四條ニ依リ縣稅ヨリ市町村費ニ對スル補助歩合左ノ如シ

一 傳染病豫防法第廿一條ニ掲クル左ノ諸費ニ對シテハ其支出精算額ノ參分

ノ一

豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當療治料及其遺族ニ給スヘキ救助料

吊祭料種痘ニ關スル諸費

豫防救治ノ爲メ雇入レタル醫師其他ノ人員ニ關スル諸費並豫防上必要ナル

藥品費

市町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者并死者ニ關スル諸費

傳染病院隔離病舎隔離所及消毒所開設ニ關スル諸費

傳染病豫防法第八條ニ依レル交通遮斷ニ關スル諸費及交通遮斷ノ爲メ又ハ

一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

一 傳染病豫防法第廿一條及第廿三條第二項ニ掲クル諸費ニ對シテハ其支出

精算額ノ六分ノ一

豫防上必要ナル器具其他ノ物件ニ關スル諸費

豫防委員ニ關スル諸費

傳染病院隔離病舎隔離所及消毒所建設修繕ニ關スル諸費
 市町村ニ於テ施行スル清潔方法消毒方法ニ關スル諸費
 衛生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲メ支出セシ費用ニ對スル市町村ノ補助費

前項及本項ニ掲クルモノ、外市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費
 第二條 市町村ノ支出額其負擔ニ堪ヘスト認ムルトキ其他特別ノ事由アルトキハ前條制限ニ拘ハラス其全部迄ヲ補助スルコトアルヘシ

第三條 第一條第二條ノ支出ニ伴フ收入アルトキハ支出總額ヨリ其收入ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

第四條 補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交附スルコトアルヘシ
 但金格ニ換算スヘシ

●訓令第五二號

明治卅一年四月廿二日

島廳 郡役所 警察署 警察分署 監獄支署
 縣立學校 縣立病院 檢査所

縣經濟ニ係ル本縣所有財産中土地建物并ニ船舶ニ於ケル異動ハ別紙書式ニ倣ヒ正副二通(郡役所ハ一通)ヲ製シ異動ノ時々報告スヘシ
 本令ハ明治卅一年五月一日ヨリ施行シ明治十五年(九月)庶第三三六號達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 但本年三月卅一日現在調報告後本令施行ノ間ニ於ケル異動ハ此際報告スベシ

縣有財産異動報告

名稱	所在地名村何番何字何番		建	坪	地	坪	異動ノ理由并年月日
	何郡何町	何字何番					
船	員	數	異動ノ理由并年月				

●訓令第五四號

明治卅一年四月廿九日

島廳 郡役所 市役所

縣稅滯納處分報告表調製方明治三十一年四月大藏省訓令第二十九號様式ニ準據シ翌年七月十五日迄ニ當廳へ差出スヘシ

●訓令第八二號

明治卅一年八月十日

島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場

市町村傳染病豫防費補助申請手續左ノ通り相定ム

市町村傳染病豫防費補助申請手續

- 一 傳染病豫防法第二十四條ニ依リ市町村傳染病豫防費補助ヲ申請セントスル時ハ第一號第二號書式ノ書面ニ支出金額精算書及証據書類ヲ添へ戶長役所ハ島廳郡役所ニ於テ前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ証據書類ト對照シ精密調査ヲ遂ケ意見ヲ付シ速カニ當廳へ進達スヘシ

三十二年四月訓令三十三號ニテ圈点ノ如ク改正本文通

但調査ヲ遂ケタル証據書類ハ差出元へ返還スヘシ
第一號書式 傳染病豫防費補助申請書

一金何程 補助請求額

但明治何年度傳染病豫防費

右傳染病豫防法第二十四條ニ依リ補助金下付相成度仕譯書及精算書相添へ此
段申請候也

年月日

市町村長 何 某印

知事宛

第二號書式

仕譯書

一金何程

補助請求額

内譯

費目	市町村支出金額	補助規程第一條第二條ノ支出ニ伴フ収入額	補助金額	補助歩合	支出ノ要領

前記ノ通り相違無之候也

年月日

市町村長 氏 名印

訓令第八號

明治卅二年二月十日

對馬島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場
島廳及戶長役所市役所町村役場ニ於テ滯納處分費ノ納金ハ各其經費所屬ノ經濟
ニ收入スヘシ

本令ハ本年四月一日ヨリ施行ス

訓令第一號

明治卅二年二月十七日

對馬島廳 郡役所 戶長役所 市役所 町村役場

縣稅徵收順序左ノ通り相定ム

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

但別冊様式ハ關係ノ各所ニ限リ別ニ頒ツ

縣稅徵收順序

第一條 各郡市一周年度歳入ノ豫算額ハ毎年之ヲ島司郡市長ニ達スヘシ

第二條 島司郡長ニ於テ稅額ヲ調定シタルトキハ別冊第一號様式ノ徵稅簿ヘ其
額ヲ登記シ徵稅令書發布ノ上該帳簿ヲ出納吏ニ移スヘシ

但徵稅簿ハ一定ノ納期アルモノト隨時徵收ニ係ルモノトハ各別ニ調製スル
モノトス

市長ニ於テ各納人ノ稅額ヲ調定シタルトキハ別冊第二號様式ノ收納原簿ニ登
記シ徵稅令書交付ノ上該帳簿ヲ收入役ニ移スヘシ

第三條 島司郡市長ニ於テ徵稅令書ヲ發付シタルトキハ別冊第五號様式ニ依リ左ノ期限内ニ其調定額ヲ知事ニ報告スヘシ

但報告後調定額ニ増減ヲ生シタルトキハ一ヶ月分ヲ翌月五日限リ報告スヘシ

地 租 割ハ四月十五日限リ

戸數割、營業 稅、雜種稅 前半期ハ四月三十日限リ後半期ハ十月三十一日限リ

營 業 稅 前半年期ハ四月十五日限リ後半期ハ十月十五日限リ

隨時徵收及ハ翌月五日限リ

第四條 町村長ニ於テ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ各納入ノ稅額ヲ查定シ別冊第二號様式ノ收納原簿ニ登記シ徵稅傳令書交付ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出納吏ハ第二條ノ徵稅簿ニ收入額收入未濟額欠損額ヲ式ノ如ク登記シ并別冊第三號様式ノ縣稅受拂簿ヲ備ヘ縣金庫ヨリ提出スル現金出納計算表ノ金額ト照査シ島司郡長ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條 市町村收入役ハ稅金收入ノ時々收納原簿ニ式ノ如ク記入調印シ領收書(令書別符)ヲ交付スヘシ

第七條 市町村收入役ハ別冊第三號様式ノ縣稅受拂簿ヲ備ヘ其合計額ト當日收入ノ現金トヲ照査シ市町村長ノ檢印ヲ受クヘシ

第八條 縣稅徵收法第八條ノ滯納者報告書ハ別冊第九號様式ニ依リ調製シ納期

後七日以内ニ出納吏ニ報告スヘシ

第九條 出納吏ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ別冊第四號様式ノ滯納金整理簿ニ登記シ速ニ督促狀ヲ發スヘシ

但縣稅徵收法施行細則第九條但書ニ依リ督促狀ノ發付ヲ委任シタルトキハ戶長町村長ニ於テ本文ノ手續ヲナスヘシ

市ニ於テ勸納者アル場合ハ市長ハ直ニ前項本文ノ手續ニ依リ督促狀ヲ發スヘシ

第十條 前條督促狀ニ指定シタル期限内ニ完納セサルモノアルトキハ島司市長ハ國稅徵收法施行細則第九條ニ準シタル証票ヲ交付シ其財產差押ヲ命スヘシ

第十一條 戶長町村長ニ於テ委任ヲ受ケ督促狀ヲ發シタルトキ其納付指定期限迄完納セシモノハ其人名ヲ島司、郡長ニ報告スヘシ

但滯納處分全部ノ委任ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第十二條 出納吏及市長ニ於テ發スル督促狀、送達書、債權差押通知書、計算書、差押調書、ハ國稅徵收法施行細則第六號第九號乃至第十二號ノ書式ニ準シ調製スヘシ

第十三條 縣稅徵收法施行細則第十一條ニ依リ出納吏ニ於テ現金ヲ縣金庫ニ拂込ムトキハ別冊第十號様式ノ拂込書ヲ調製添付スヘシ

第十四條 縣稅徵收法施行細則第七條ニ依リ出納吏ニ於テ徵收シタル稅金ヲ知事ニ送納スルトキハ別冊第六號様式及送納金ノ科目更正ヲ要スルトキハ全第

七號様式ニ細則第十二條ノ過誤納金還付請求書ハ全第八號様式ニ依リ調製ス

簿 原

何月何日第何號 一金何程 △何月何日滯納報告	△何月何日廢業又ハ何 町村へ轉居	何番戶 氏名
合計金何程 内 金何程何月何日納付 金何程何月何日納付 △金何程何月何日滯納 報告		

備考

本簿ハ一周年度毎ニ各税目(項)分ニテ見出ヲ付シ調製スヘシ
 本簿ハ一定ノ納期アルモノニ限リ登記スルモノトス
 第二號ノ二様式(用紙適宜)(△印ハ朱書)

簿 原 納 收 時 隨

明治何年度縣稅前(後)期何稅	何町村 名
稅 額	何番戶 氏名
何月何日第何號 一金何程 徵收令書又ハ徵稅傳 令書割印	何月何日領收○收入役 印 △何月何日滯納報告

備考

本簿ハ每半期毎ニ各税目(項)分ニテ見出ヲ付シ調製スルモノトス本簿ハ

前(后)期縣稅滯納金整簿

月何日限	一 金何程	〇 督促狀割	何稅 取扱主	金何程何々費	通貨差押(何々 差押收入又ハ賣 却ノ上公買代金 收入)	氏 名
●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●

備考

本簿ハ順次付込記入スルモノトス但科目別又ハ町村別ニ爲シ見出ヲ付スルモ妨ナシ

本簿ハ滯納者一人別ニ督促狀發付後ノ顛末ヲ記入スルモノトス

第三欄ノ督促手數料ノ外ハ其費額ノ確定シタルトキ記入スルモノトス

第四欄ノ顛末ハ滯納處分費及税金納濟ノ月日通貨又ハ財産ヲ差押シ徵收シタルコト、差押物件ヲ賣却シテ其公買代金ヲ以テ徵收シタルコト、公買代金ノ内處分費税金ヲ引去リタル殘余ヲ滯納者ニ交付シタルコト、税金ノ一部又ハ全部欠損ニ歸シタル等必要ノ事故ヲ記入シ置クモノトス

第五欄宿所ハ若シ寄留者ナルトキハ原籍地ヲモ記入シ置クヘシ

第五號様式 (用紙半紙野紙)

第何號

(△印ハ朱書)

明治何年度(何月中)縣稅調定額(増減)報告書

一金何程

地 租 割

但地租金何程地租壹圓ニ付金何程

△内(外)金何程

△乘出過(不足)

一金何程

前(后)期分

内 譯

金何程

營 業 稅

内

金何程

商 業 稅

金何程

工 業 稅

金何程

雜 種 稅

内

金何程

料 理 屋 稅

金何程

飲 食 店 稅

金何程

營 業 稅 附 加 稅

金何程

營 業 稅 附 加 稅

金何程	戶數割
但戶數何戶壹戸ニ付金何程	
△(内)外金何程	△乘出(過)不足
右納(増減)額申報候也	
年月日	島司郡市長氏名印
知事宛	
備考	
本書ノ番號ハ普通文書ノ番號トハ各別ニナシ付記スヘシ	
税目ノ順序ハ毎年定ムル處ニ隨ヒ各項目ヲ以テ列記シ前後混交スヘカラス	
増減額報告書ニハ其理由ヲ付記シ且ツ増額ト減額ハ別紙ニ調製報告スヘシ	
第六號様式 (用紙半紙野紙)	
送第何號	
證	
一金何程	明治何年度前(后)期縣稅
但第何號送金手形添付	
内譯	
金何程	地租割
金何程	營業稅
内	商業稅

金何程	工業稅
金何程	雜種稅
内	
金何程	料理屋稅
金何程	飲食店稅
金何程	營業稅 附加稅
金何程	戶數割
右送納候也	
年月日	出納吏官氏名印
知事宛	
備考	
本書ノ番號ハ普通文書ノ番號ト各別ニシ縣稅受拂簿ニ記載ノ番號ヲ送第何號トシテ付記スヘシ	
本書科目記載ノ順序ハ第五號様式備考ニ全シ	
本書送納金ニシテ前月分徵收金混同ノ場合ニハ適宜付箋又ハ仕譯書ヲ以テ月別ノ仕譯ヲナスヘシ	
第七號様式 (用紙半紙野紙)	
第何號	(△印ハ朱書)

縣稅科員更正請求書

一金何程

明治何年度前(后)期何稅

但何年何月何日 第何號ヲ以テ送納ノ分(内)

△一金何程

△明治何年度前(后)期何稅

△一金何程

△全 何稅

右朱書ノ通リ科目更正相成度候也

年 月 日

出納吏(市長) 氏 名 印

知事宛

備考

戸長町村長ニ於テ更正ヲ要スルキモ本書式ニ據ル

第八號様式 (用紙半紙對紙)

第何號

過誤納縣稅還付請求書

一金何程

明治何年度前(后)期縣稅

内 譯

金何程

何 稅

但明治何年何月何日送第何號納證ニテ送納ノ分

(内) 何々ノ事由ニヨリ(過誤納トナリタル事由并ニ計算ノ基ク所ヲ詳

細記載スヘシ)過誤納ニ係ル分

金何程

何 稅

但、、、、

右還付請求候也

年 月 日

出納吏(市長) 氏 名 印

知事宛

備考

過誤納ノ爲メ還付ヲ請求スルハ其事由ヲ詳細ニ過年度分ニ係ルトキハ業

体及住所氏名ヲモ記載シ數名又ハ複雑ニ涉ルモノハ仕譯書ヲ添付スヘシ

戸長町村長ヨリ請求スルモノモ本書式ニ據ル

第九號様式 (用紙半紙對紙)

第何號

明治何年度(前)(后)期縣稅滯納者報告書

科 目	滞納稅金	住 所	氏 名
何稅(項)	金何程	何町村何字何番戶	何 誰

右報告候也

年 月 日

戸長町村長 氏 名 印

出納吏宛

郡區長へ庶務課ヨリ申進
 經費勘定帳運搬費中ニ於テ往々人夫ヲ以テ公文若クハ物品ヲ運搬シタル費用有
 之候處右ハ日給ヲ以テ雇フタル人足ヲ以テ運搬シタルモノハ諸雇給ヨリ支出シ
 里程若クハ量目ヲ以テ仕拂フタル賃金ハ運搬費ヨリ支出スヘキ義ニ有之候條爲
 念此段申進候也

●應達第一九號

明治三十年五月四日

廳中一般

本年四月本縣訓令第二十一號地方稅經濟ニ屬スル物品取扱規程ニ關シ左之通リ
 相定ム

一 第三條ノ物品取扱主任ハ關係アル各課ニ於テ之ヲ定メ内務部第一課へ通知ス
 ヘシ

一 第六號乃至第九號ノ購入簿賣却簿棄却簿及修繕品書留簿ハ從來之通リ稟議書
 ヲ以テ之ニ換用スヘシ

一 第十號乃至第十一號ノ出納報告書ハ關係アル各課ニ於テ之ヲ取經メ調査ノ上
 内務部第一課ニ回付スヘシ

●應達第二〇號

明治三十年五月二十日

廳中一般

本年四月本縣訓令第二十一號地方稅經濟ニ屬スル物品取扱規程ニ定ムル所ノ所
 長事務ハ物品ノ購入、修繕、賣却、棄却ヲ除ク外總テ關係各課長ニ於テ之ヲ決行
 シ出納報告書ハ内務部第一課ニ回付スヘシ

●應達第三一號

明治卅一年三月三十日

廳中一般

長崎縣々金庫規程左ノ通相定ム

左記ハ本日付長崎縣訓令第三十三號(公報第九百九十號)之通ニ付省略ス

●應達第二七號

明治卅二年四月十四日

廳中一般

縣稅支辨ニ屬スル縣稅檢査員ノ旅費規則左之通相定ム

縣稅支辨ニ屬スル縣稅檢査員旅費規則

第一條 縣稅檢査員ノ旅費ハ此規則ニ定ムルモノ、外明治三十年十月訓令第六
 十九號ニ依ル

第二條 縣稅檢査員縣稅檢査ノ爲メ旅行スルトキハ普通旅費ヲ給セス月額貳拾
 五圓ヲ給ス但發應ヨリ最初ノ用務地マテ及最終ノ用務地ヨリ歸廳マテ並甲郡
 ヲリ乙郡ニ至ル汽車賃船賃車馬賃ハ此限ニアラス

第三條 旅行日數一ヶ月廿五日以上ハ全額ヲ給シ二十五日ニ滿タサルトキハ旅
 行日數ニ應シ月額三十分ノ一ノ割合ヲ以テ日割ヲ支給ス

第四條 一郡内ニシテ地勢上渡航スルニアラサレハ至リ難キ場所ハ特ニ渡航ノ
 實費(汽船賃ハ下等)ヲ給ス

第五條 廳下(長崎市)ニ縣稅檢査ノ爲メ出張スルトキハ特ニ手當トシテ日額
 三拾錢ヲ給ス

●乙第一一五號

明治十六年八月廿二日